

市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 - 観光物産拠点整備強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ウ		
	担当部課名	企画部 観光商工課	事業実施(予定)年度	平成24～25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)	
事業内容	物産館整備に伴い、多くの観光客等の来訪者が予想されるが、既存の駐車場においては、駐車スペースが手狭なため、駐車場の拡張等を行う。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
	予算の状況	(a)当初予算額	294,201	-	29,925		
		(b)予算現額	294,201	-	29,925		
		(c)増減額(b-a)	0	-	0		
		(d)繰越額	-	198,324			
		A.計(b+d)	294,201	198,324	29,925		
	B.執行済額		95,877	179,806	24,098		
	うち交付金充当額		76,701	133,272	19,278		
	次年度繰越額		198,324	0			
	執行率(%) (B/A)		32.6%	90.7%	81%		
予算の状況の説明		不要額が5,827千円発生しているが、工事費の入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	地域物産館駐車場整備拡張のための土質調査、測量業務、実施設計、工事着手	目標	地域物産館駐車場整備拡張工事の実施・完了	( )	( )	( )	
		実績	地域物産館駐車場整備拡張工事の実施・完了				
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	地域物産館駐車場整備拡張工事を行うことにより最大50台余りの駐車が可能となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(23年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	地域物産館駐車場整備拡張工事の実施・完了	目標	( - )	地域物産館駐車場整備拡張工事の実施・完了	( )	( )	( )
		実績		地域物産館駐車場整備拡張工事の実施・完了			
	[参考指標]		目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
	進捗状況説明	最大50台余の駐車が可能となり、観光客受入体制の充実強化、誘客促進が図られている。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>地域物産館が平成25年11月に開館し、本事業で駐車場整備を行ったが、連日満車の状況で、整備した台数ですでに容量超過が生じている。対応として知念体育館の駐車場を活用している状況であるが、地域物産館までの間で一部歩道が設置されていない箇所もあり、車道を通行する観光客も見受けられ対策が必要である。</p> <p>世界遺産斎場御嶽に来場される多くの観光客も当該駐車場を利用しており、駐車場から斎場御嶽までの道路も一部、歩道が設置されていない場所があり対策が必要である。</p>	<p>今後は更なる駐車場不足を解消するため、安全対策も含め総合的に検討する必要がある。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>駐車場の増設及び歩道等の安全確保を含めた総括的な検討を行う。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	24,098	24,098	19,278	4,820	0
<pre> graph LR     A[南城市 24,098千円] --&gt; B[委託費 2,678千円]     A --&gt; C[工事請負費 21,420千円]     B --&gt; D["(有)ユアピス測量設計 2,678千円"]     C --&gt; E["(有)花道建設 21,420千円"]     D --- F["測量・地質・設計にかかる業務委託"]     E --- G["土工・縁石工・舗装工・ライン工・表層着色工・付帯工の請負工事"] </pre>					
資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明		
-		支出先の選定方法は妥当か。	・請負事業者の選定は工事・委託ともに指名競争入札により選定しており、妥当であったと考えている。(工事及び委託の指名業者は選定委員会を設けて審査している)		
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。			
		受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について支出等に関する書類により確認、適正であった。		
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 - 市域景観形成強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ウ		
	担当部課名	産業建設部 都市建設課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	魅力的な観光地、まちづくりを形成するため、市内の道路・歩道のカラー舗装、コンクリート吹付等の工法用いて、市道の景観形成を行う。また周辺の空きスペース等には地域住民による色彩豊かな花の植栽等の緑化活動を実施する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
	予算の状況	(a)当初予算額	10,010		10,003		
		(b)予算現額	10,010		10,012		
		(c)増減額(b-a)	0	0	9		
		(d)繰越額	-	4,001	-		
		A.計(b+d)	10,010	4,001	10,012		
	B.執行済額		6,009	4,001	10,012		
	うち交付金充当額		4,807	3,193	8,000		
	次年度繰越額		4,001		0		
	執行率(%) (B/A)		60.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		当初計画していた事業計画内容はすべて実施したので活動目標、成果目標の達成状況を適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	市道植樹帯防草工事実施整備路線2か所	目標	整備路線1箇所 整備延長 L=0.8Km	(整備路線2箇所)	( )	( )	
		実績	整備路線1箇所 整備延長 L=0.8Km	整備路線2箇所			
			目標	( )	( )	( )	( )
		実績					
達成状況説明	市道の景観形成を行うことによって周辺の空きスペース等に植樹柵を設置し、緑化活動目標(指標)が達成できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	市道植樹帯防草工事実施整備路線2か所	目標	( )	(整備路線1箇所)	整備路線2箇所 整備延長 L=0.8Km	( )	( )
		実績		整備路線1箇所	整備路線2箇所 整備延長 L=0.8Km		
	[参考指標]		目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
進捗状況説明	今年度は、目標とおりの0.80Kmの整備が達成できた。 次年度も0.6kmの整備が残っており、地域住民と連携しながら進めたい。						

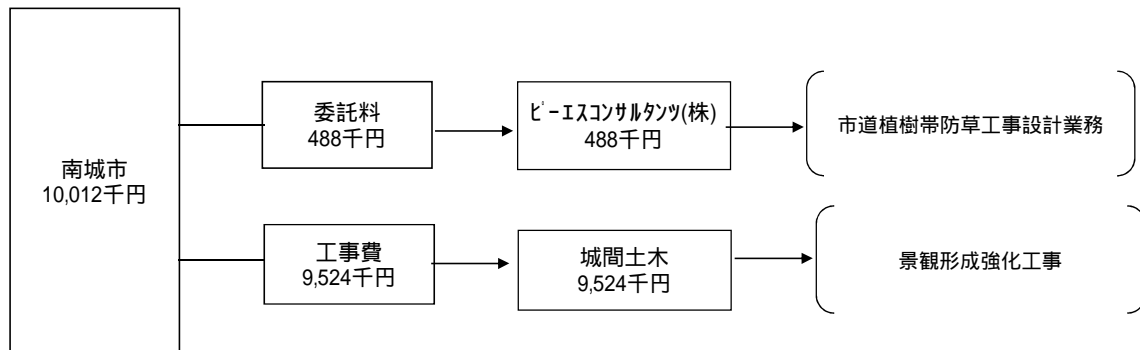
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	今年度は、目標とおり0.80kmの整備が達成でき、特に問題ないと考え。次年度も0.6kmの整備が残っており、地域常民と連携しながら進めたい。	景観改善を予定している路線が1路線残っており、次年度において完成させたい。

**今後の取り組み方針**

自然に配慮した土系舗装、色彩豊かな花の植栽により、市道の景観形成を図り、魅力的な観光地形成と歩行者や車道通行の安全を図る。平成26年度においては、防草除去を行い、既存の植樹帯をアスファルト舗装にすることで歩道内にある自転車道及び歩行者通行の安全を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,012	10,012	8,000	2,012	0



資金の用途の点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出先は、指名競争入札により、業者を選定しており妥当と考えている。 費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 - 海外移住者子弟研修・国際交流推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-4-(1)-ア		
	担当部課名	企画部 まちづくり推進課	事業実施(予定)年度	平成24～25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進 - 1 - (1)	
事業内容	本市と移住国との国際交流を推進するため、本市出身の海外移住者子弟の研修生を受け入れ、本市の文化・伝統・各種技術等の研修や研修生と市内小中学校との交流授業を行う。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	900	985			
		(b)予算現額	900	985			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		900	985			
	B.執行済額		815	864			
	うち交付金充当額		652	691			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		90.6%	87.7%			
予算の状況の説明		当初予算額より約12万円の不用額が発生しているが、対象外の食料費のためであり、計画していた研修内容はすべて実施。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	海外移住者子弟の研修生受入実施 アルゼンチン共和国研修生1名受入	目標	( 1名受入 )	( 1名受入 )	( )	( )	
		実績	1名受入	1名受入			
		目標	( )	( )	( )	( )	
実績							
達成状況説明	アルゼンチン共和国から研修生1名を受入し、H25.12/16～H26.3/9までの間、南城市内を中心に日本語・三線・エイサー・料理研修を実施した。また、他市町と合同で各市町小学校をまわり児童たちと交流を深めた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	海外移住者子弟の研修生受入実施 アルゼンチン共和国研修生1名受入	目標	( 1名受入 )	( 1名受入 )	( 1名受入 )	( )	( )
		実績		1名受入	1名受入		
	[参考指標]	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明	アルゼンチン共和国から研修生1名を受入し、H25.12/16～H26.3/9までの間、南城市内を中心に日本語・三線・エイサー・料理研修を実施した。 南城市、南風原町、豊見城市内の小学校へ出向き交流授業を行った。						

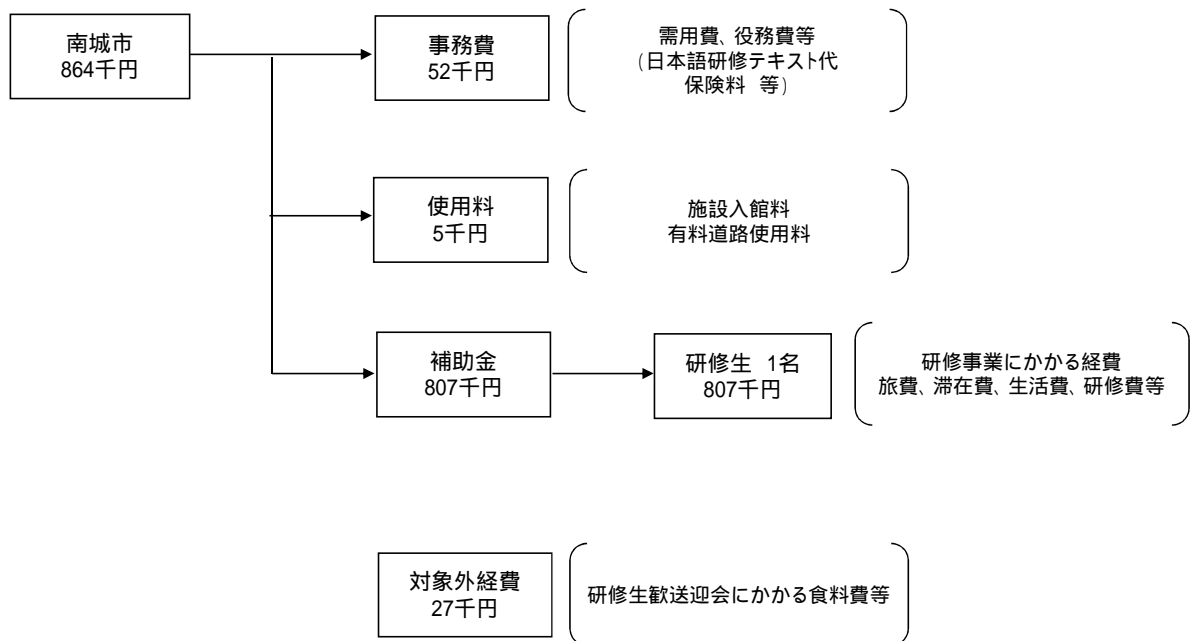
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	海外移住者の子弟が3世、4世へと世代を重ねるとともに、1世代目の南城市での近親者もまた世代を重ね、その結びつきが薄れつつある中、市内に居る受入家庭を見つけることが困難となっている。 また、ブラジル・アルゼンチンという移民国とのネットワークで事業を実施しており、他の地域への展開ができていない。	受入家庭・身元保証人の確保が難しくなっていることから、引き続き他市町村の動向を踏まえつつ、受入方法の検討を行うとともに、受入国を広げることで市内在住の近親者の拡大に努める必要がある。

**今後の取り組み方針**

本事業実施要綱の見直しを検討しつつ、受入方法の多様化、受入国の拡大等を実施し、移住国の県系人とのつながりを広げ、積極的な国際交流を図る。また、これまでに受け入れた研修生とのネットワークを構築し、受入家庭への積極的なアプローチを図っていきたい。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

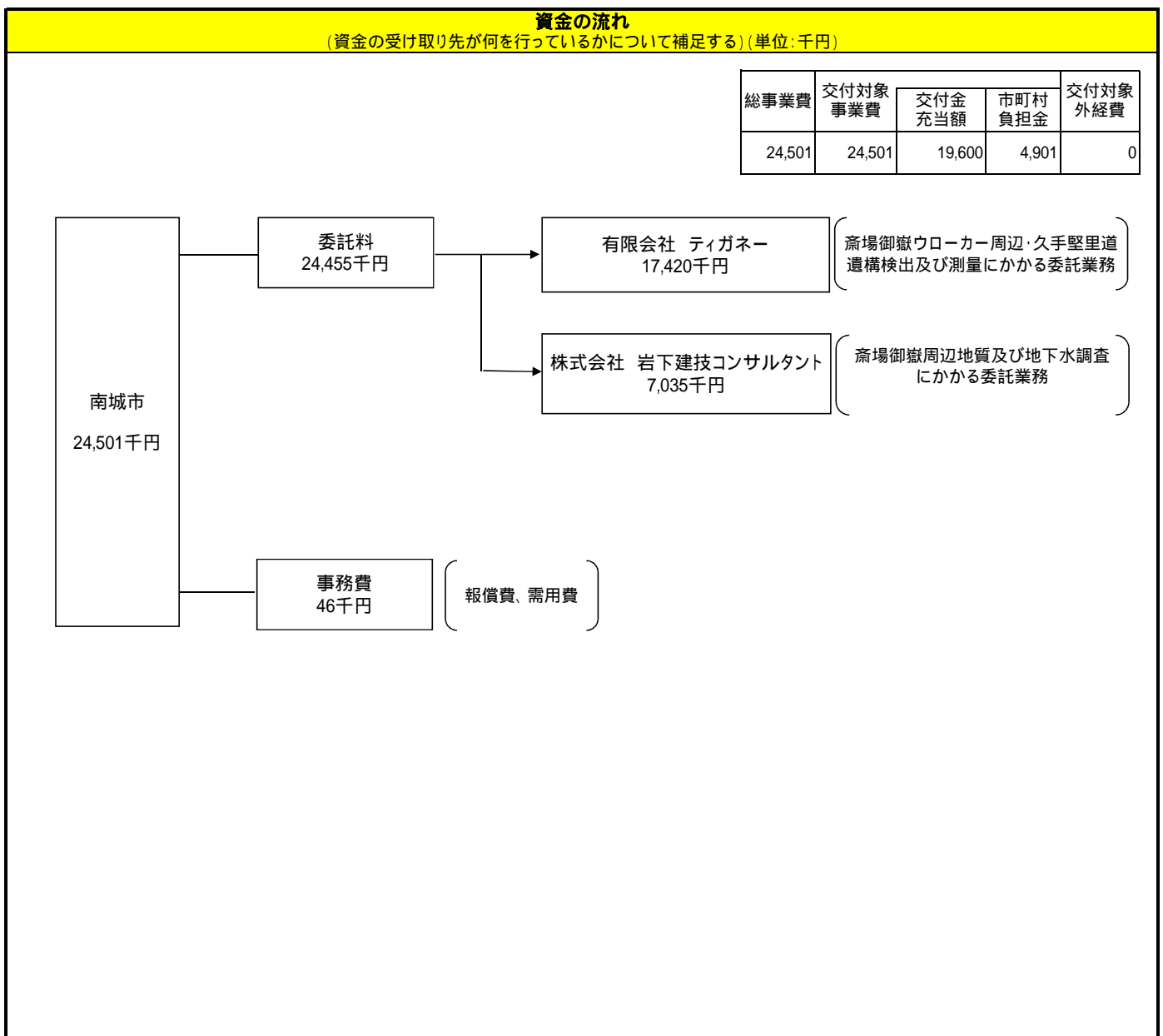
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
891	864	691	173	27



資金の用途の点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であり、受益者との負担関係も審査をし妥当であると判断した。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		南城市										
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	1 - 世界遺産「斎場御嶽」周辺整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ウ							
	担当部課名	教育部 文化課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備						
事業内容	散策道、木製階段等を整備し広く一般公開することにより、世界遺産「斎場御嶽」の更なる魅力を伝え、観光客等誘致促進を図る。											
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )											
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）	予算の状況	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		
		(a)当初予算額	91,835	24,501								
		(b)予算現額	91,835	24,501								
		(c)増減額(b-a)	0	0								
		(d)繰越額	-	-								
		A.計(b+d)	91,835	24,501								
		B.執行済額	89,187	24,501								
		うち交付金充当額	71,349	19,600								
		次年度繰越額	0	0								
		執行率(%) (B/A)	97.1%	100.0%								
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。										
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況									
			25年度		26年度		27年度		28年度			
	世界遺産「斎場御嶽」周辺整備 ・遺構検出及び測量 ・土質及び地下水調査	目標	( 委託2件 )	( )	( )	( )	( )					
		実績	委託2件									
		目標	( )	( )	( )	( )	( )					
実績												
達成状況説明	平成24年度で取得した土地内や斎場御嶽周辺地の里道に残っていた琉球王国時代や太平洋戦争時の遺構検出及び遺構測量委託業務を実施した。また、ウローカーと呼ばれる湧き水の自然水が枯れているため、その原因究明のために土質及び地下水調査委託業務を実施した。2件の委託業務実施により、斎場御嶽周辺遺構の構造や地下水の状況等が判明し、また地下に埋没していた旧日本軍砲台跡が新規で発見されるなど斎場御嶽周辺の文化財調査における大きな成果が得られた。											
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値		25年度		26年度		27年度		目標値(年度)	
	世界遺産「斎場御嶽」周辺整備 ・遺構検出及び測量 ・土質及び地下水調査	目標	( )	( 委託2件 )	( )	( )	( )	( )				
		実績		委託2件								
	[参考指標]		目標	( )	( )	( )	( )	( )				
			実績									
進捗状況説明	遺構検出により新たに戦争遺跡である砲台跡等が確認された。またウローカーの地下水状況もボーリング調査により状況が把握されたため、今後は、得られた成果に基づき、太平洋戦争時に旧日本軍が構築した戦争遺跡や琉球王国時代に造られた石畳参道等の復元整備、ウローカーの湧水再生等を実施していく。											

推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	遺構検出や周辺土質・地下水調査等委託業務の実施により、ウロカーへ続く石畳参道や旧日本軍による砲台跡等戦争遺跡周辺の土砂流れ込みが想定以上に大きいことが判明し、今度も台風大雨等災害における文化財へ与える影響があると思われるため、その対策が必要である。	平成24年度に策定した「斎場御嶽周辺整備実施計画」を踏まえ、周辺整備工事設計委託業務で設計を作成するとともに、考古学、石造建築、環境の専門等学識者で構成する斎場御嶽周辺整備委員会を設置して土砂流失防止対策等改善策の検討を行う。
	<b>今後の取り組み方針</b>	
遺構検出によって新たに検出された旧日本軍砲台跡やコンクリート製構造物等の整備やその周辺地の土砂流出防止対策等について、平成26年度に周辺整備委員会で検討して工事設計を作成し、復元整備工事を実施していく。		



資金の流 れ、費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1- なんじょうハートプロジェクト推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-イ		
	担当部課名	企画部 まちづくり推進課	事業実施(予定)年度	平成24年度～25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開 -1-(1)	
事業内容	地域資源を活かした南城市のイメージアップを図るため、南城市の地形である「ハート」を一体的に捉えたまちづくり、市キャラクター「なんじい」を活用したグッズ等による観光PR等を実施する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	10,000	12,700			
		(b)予算現額	10,000	12,700			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)		10,000	12,700			
	B.執行済額		9,969	12,496			
	うち交付金充当額		7,975	9,996			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		99.7%	98.4%			
予算の状況の説明		不要額が204千円発生しているが、備品購入の入札残によるものである。当初計画していた事業内容はすべて実施しており、適正に執行されたと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・商品パッケージの開発 ・PRグッズ等の制作及び配布 ・PRイベントの開催	目標	3品目 (制作及び配布 1回)	3品目 (制作及び配布 1回)	( )	( )	
		実績	3品目 制作及び配布 1回	3品目 制作及び配布 1回			
・ラッピングカーによる市内外へのPR活動	目標	( - )	( 購入・実施 )	( )	( )		
	実績	-	購入・実施				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市のキャラクターである「なんじい」を活用した商品パッケージ(3品目)の開発を行った。</li> <li>・PRグッズ等の制作及び配布を実施した。</li> <li>・「HARAJUKUKAWAII2013 in OKINAWA」へなんじい出演、ブース出展を行った。</li> <li>・平成26年2月9日に那覇市国際通りで観光イベント「なんじい国際通りジャック」を開催した。</li> <li>・ラッピングカーによる市内外へのPR活動を行った。</li> </ul>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	・商品パッケージの開発 ・PRグッズ等の制作及び配布 ・PRイベントへの誘客 ・ラッピングカーでの出勤回数	目標	( 0品目 )	3品目 ( 11,500個 ) 20,000人	2品目 3点 3,000人 10回	( )	( )
		実績		3品目 11,500個 20,000人	3品目 8点 19,500人 76回		
	【参考指標】 県内外の情報誌(メディア)等への掲載(出演回数)		目標	( 7回 )	( 22回 )	( 55回 )	( )
		実績		雑誌、アプリ、テレビ、新聞等	雑誌、アプリ、テレビ、新聞、ネット等		
進捗状況説明	商品パッケージ(3品目)のデザインに南城市キャラクター「なんじい」や「ハートロゴマーク」を用いたことでハートのまち南城市のPRを図った。 なんじいのショーへの出演、ブースの出店を行った「HARAJUKUKAWAII2013 in OKINAWA」では若い年齢層を中心に約4,500人が来場した。 観光イベントを実施した国際通りには、約15,000人が来場した。 来場者に向け、PRグッズの配布を行った。						



市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1- 南城ツーリズム「元気を取り戻す旅」誘客モニター事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ア		
	担当部課名	企画部 観光商工課		事業実施(予定)年度	平成24～25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立
						- 1 - (1)	
事業内容		本市の特徴を活かしたメンタルヘルス対応の社員研修のモニターツアーを行い、体験滞在交流型観光を推進する。					
実施方法		直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
	予算の状況	(a)当初予算額	7,000	0	13,500		
		(b)予算現額	7,000		13,500		
		(c)増減額(b-a)	0	0	0		
		(d)繰越額		2,000			
	A.計(b+d)		7,000	2,000	13,500		
	B.執行済額		5,000	2,000	13,493		
	うち交付金充当額		4,000	1,600	10,794		
	次年度繰越額		2,000				
	執行率(%) (B/A)		71.4%	100.0%	100%		
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	モニターツアーの実施回数 1回	目標	( ツアー開催1回 )	( 1回 )	( )	( )	
		実績	ツアー開催 1回	3回			
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	トップガン研修モニターツアー開催のため実行委員会を3回開催し、ツアーであるワークショップを1回開催した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	モニターツアー実施 1回 (県外企業の社員20名受入)	目標	( )	( 20名 )	( 1回 (20名) )	( )	( )
		実績		20人	3回 (60名)		
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	南城市の精神文化資源を活かした高価格・高付加価値の旅行事業としては、当初予定していたメンタルヘルス調者対応プログラムとともに、企業リーダーとして「社員の生産性向上と人間力向上」といった企業が抱える問題解決にも活かされており企業「トップガン」向けの研修プログラムにも可能性があると思われる。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業リーダーシップ研修に留まらず、褒賞旅行、体験型社員旅行、営業職や新人研修、コミュニティー・サークルなどにも活用し更なる向上を図る必要がある。</li> <li>体験型企画旅行にとどまらず、その効果・効能にこだわり一過性の企画ではなく継続性の商品としていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各研修プログラムに、インストラクターを配置しより充実したプログラムを実施する。</li> <li>様々な研修プログラムを作成しツアー商品の充実を図る。</li> </ul>
	<b>今後の取り組み方針</b>	
<p>現在ツアー商品としての販売をしているプログラムもあり、今後は旅行代理店・南城市観光協会・地域事業者(インストラクター)との連携のし商品の充実を図ると共に、企業への営業やホームページ・チラシ等による宣伝・広告活動を行い更なる拡充を図る。</p>		

資金の流れ					
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
	13,493	13,493	10,794	2,699	0
<pre> graph LR     A[南城市 13,493千円] --&gt; B[委託料 13,493千円]     B --&gt; C[沖縄ツーリスト株式会社 13,493千円]     </pre> <p style="margin-left: 600px;">( 南城市観光協会「元気を取り戻す旅」誘客モニター事業にかかる委託業務 )</p>					

資金の用途の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

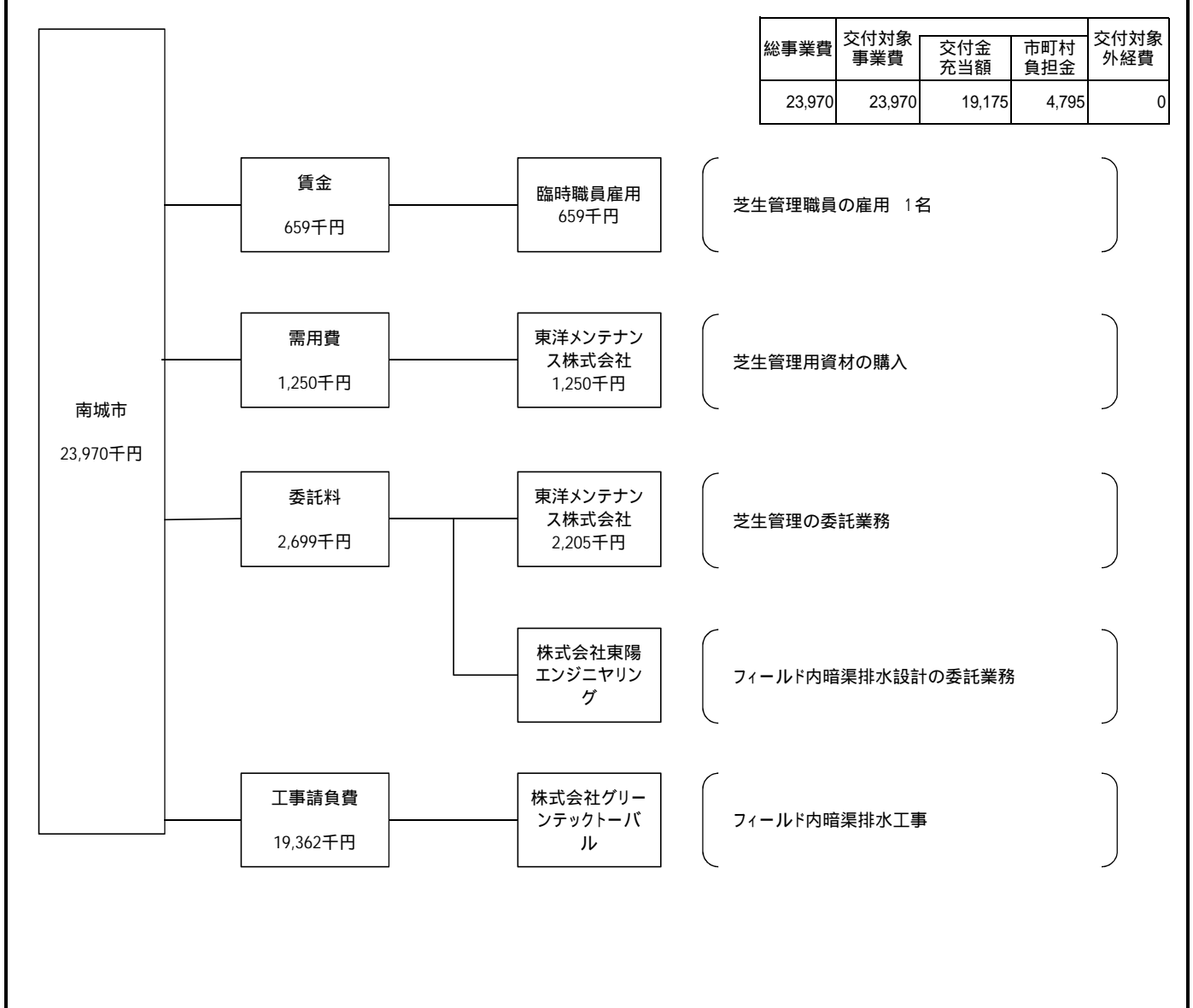
市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 -		スポーツツーリズム推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
	担当部課名	教育部 教育総務課		事業実施(予定)年度	平成24～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 - 1 - (1)
事業内容	本市陸上競技場はスポーツキャンプ等が数多く開催されており、観光客等の誘客促進及び青少年の健全育成を図るため、天然芝の良質な状態を保持を図り、芝生管理を図るための人材を育成する。 また、透水性の乏しい芝生フィールドの排水設備整備を行い、スポーツキャンプ受入れに適した施設整備を行う。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	15,399	27,483			
		(b)予算現額	9,959	24,734			
		(c)増減額(b-a)	5,440	2,749			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	9,959	24,734			
	B.執行済額		9,345	23,970			
	うち交付金充当額		7,476	19,175			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		93.8%	96.9%			
予算の状況の説明		274万円の補正減と76万円の不用額が発生しているが、いずれも工事請負費の入札残等によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	芝生維持管理に精通した人材の育成	目標	( 1名 )	( )	( )	( )	
		実績	1名				
	フィールド内暗渠排水整備	目標	( 1件 )	( )	( )	( )	
		実績	1件				
達成状況説明	・芝生管理の臨時職員を1人雇用し、専門の業者へ芝生の管理委託をした。 ・フィールド内に暗渠排水の管を埋める工事を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	芝生維持管理に精通した人材の育成	目標	( )	( 1名 )	( )	( )	( )
		実績		1名			
	フィールド内暗渠排水整備	目標	( )	( 1件 )	( )	( )	( )
		実績		1件			
	進捗状況説明	・芝生管理の臨時職員を1人雇用し、専門の業者へ芝生の管理委託を行うことで、良質な芝の状態を維持管理しつつ、臨時職員に年間を通しての芝生管理の技術を学ばせた。 ・フィールド内に暗渠排水の管を埋める工事を行ったことにより、フィールドの透水性が高まり、雨天時や雨天後であってもフィールドで芝生管理作業やサッカーの練習等ができるようになった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	良質の芝生を維持管理し、サッカーキャンプ受け入れの実績を重ねたことにより、プロサッカーチームからの問い合わせ等が増えてきている。今後もサッカーキャンプの受け入れを継続していくために、チームの担当者が視察にくる夏から秋にかけても芝生を良質な状態にしておく必要がある。	今後も継続してサッカーキャンプを受け入れていくためにも、年間を通じた良質な芝生の維持管理を継続して行く必要があることから、次年度以降も芝生管理職員の雇用の継続はもちろん、専門的な技術を持つ業者への管理委託も継続して行く。

**今後の取り組み方針**

芝生の管理、サッカーキャンプの受け入れはようやく軌道に乗り始めたところであり、ここからいかに継続させていくかが重要なところである。年間を通して良質な芝生の状態を保持してサッカーキャンプの受け入れていくため、芝生管理職員を継続して雇用しつつ、専門的な技術を持つ業者への芝生管理委託も継続し、芝生管理職員の資質を高める。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・芝生管理の資材購入と委託業務については、南城市陸上競技場が県の実施する芝生養成事業の拠点研修施設に選定されたことから、同事業の受託業者と随意契約を交わすことにより、限られた予算を最大限に活用できたと考えている。 ・フィールド内暗渠排水工事については指名競争入札を行い、妥当である。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

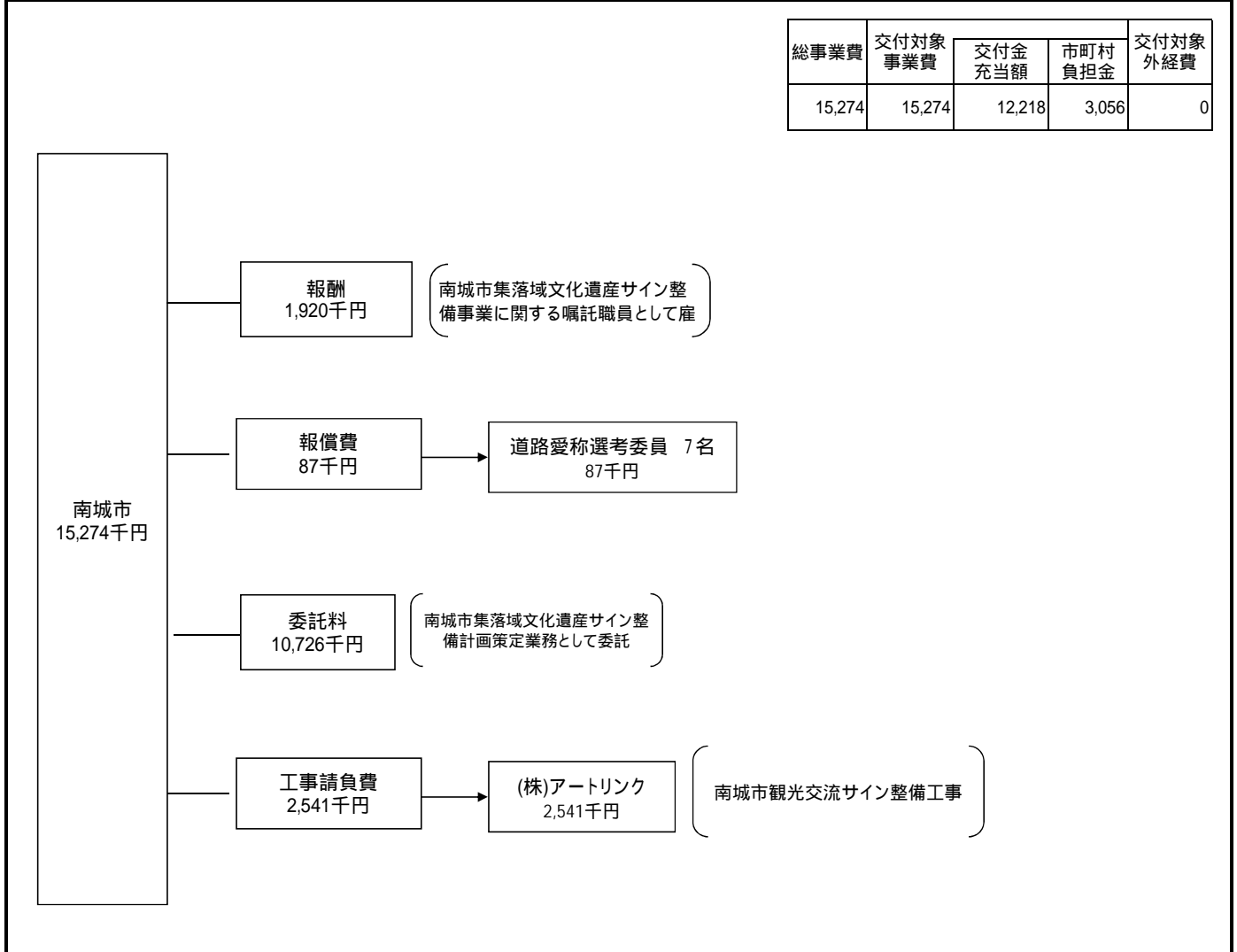
市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 - 観光交流サイン整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ウ		
	担当部課名	企画部 観光商工課 産業建設部 都市建設課 教育部 文化課		事業実施(予定)年度	平成25～29年度	観光客の受入体制の整備	
				沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)		
事業内容							
来訪者にとってわかりやすい誘導案内や周辺案内、解説板、名称板等のサインを整備することにより、スムーズな案内誘導を進めるとともに都市景観の向上や、歴史文化遺産の顕在化と魅力の充実、市民と来訪者との交流促進、観光の振興を図る。							
実施方法							
直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	15,800				
		(b)予算現額	15,800				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)		15,800				
	B.執行済額		15,274				
	うち交付金充当額		12,218				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		96.7%				
予算の状況の説明		不用額が526千円発生しているが、工事費の入札残によるものである。当初計画していた事業内容はすべて実施したほか、活動目標、成果目標が達成できた状況を鑑みると適正に執行されたと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	各字調査(63字) 道路愛称選考委員会の設置 道路愛称の決定 観光関連施設への誘導案内版の整備	目標	63字 委員会設置 道路愛称決定 誘導案内版整備	( )	( )	( )	
		実績	63字 委員会設置 道路愛称決定 誘導案内版整備完了				
			目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
達成状況説明	現地調査(聞き取り、現場確認、写真撮影等)文献調査及びアンケート等による調査を63字で行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(24年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	各字調査(63字) 整備計画書の策定 道路愛称選考委員会の設置 道路愛称の決定 観光案内版の整備:20ヶ所	目標	( )	63字 委員会設置 道路愛称決定 案内版整備20ヶ所	( )	( )	( )
		実績		63字 委員会設置 道路愛称決定 誘導案内版整備22ヶ所			
			目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
	進捗状況説明	・現地調査(聞き取り、現場確認、写真撮影等)文献調査及びアンケート等による調査を63字で行い、モデル地区における案内板、解説板、誘導板の各種サインの設置位置および表示内容の決定、工事費の算出を行った。 ・総合的な誘導案内版の配置計画により、成果目標(指標)以上の観光案内版の整備を実施することができた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>サインデザインの統一            標柱、解説板の不足            誘導板の設置及び文化遺産情報の発信            観光施設の所在する自治会との調整を密に行う必要がある。            観光案内板を設置する用地の確保に時間を要した。            世界遺産「斎場御獄」の駐車場の変更に伴い、新たな駐車場への誘導に課題がある。</p>	<p>既存のサイン施設にも配慮した南城市として統一したサインの再整備            景観に配慮しながら、標柱や解説板が未設置の文化遺産にサインを設置することにより来訪者の利便性や地域住民が地元の歴史や文化遺産を共有できその距離も近づくと考ええる。            文化財への誘導板は地域住民と調整し、公開したくない資源と分ける。来訪者にとっての利便性も考慮する。誘導板等のサイン整備と併せて、ホームページやパンフレット、ガイドマップ等により文化遺産の情報を発信できるようにする。            自治会との調整や用地の確保など計画的に事業を遂行していく。            誘導板等のサイン整備と併せて、ホームページやパンフレット、ガイドマップ等により観光施設の情報を発信できるようにする。</p>

**今後の取り組み方針**

- ・案内の対象となる文化資源を整理し案内板、解説板、標柱、誘導板等の類型に分けて整備する。
  - ・既存のサインは、原則そのまま活用する。
  - ・サイン施設以外のツールとも連携できるようにする。
  - ・主なサイン利用者の想定に観光客、市民、県民をおく。
  - ・可能な限りのユニバーサルデザイン対応を図り、身体的弱者に対しては、安全、利用、デザイン等の配慮をする。
  - ・多言語対応として英語を併記する。難解な琉球語に関しては、読み仮名を振る。
  - ・サイン施設は耐久性のある素材及び加工方法を採用する。
  - ・デザインは周辺景観と調和し、既存のサイン施設との調和も図る。
- 南城市を訪れる観光客や市民に対し、観光施設や文化遺産等について、適切でわかりやすい情報の提供と誘導を行うため、統一したデザイン対応、多言語対応を図る。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託業者、工事請負事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 南城市集落域文化遺産サイン整備計画策定業務の委託料は、プロポーザル方式で業者選定し、また、調査の際に必要な嘱託職員の人件費についても、妥当である。 報償費は、講師等謝礼金支払基準表に基づき適正に支払われており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名	南城市
------	-----

**平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】**

事業番号・事業名	1 -	デマンド交通実証実験事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ
担当部課名	企画部 政策調整課	事業実施(予定)年度	平成24～27年度	観光客の受入体制の整備
			沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)

**事業内容**  
 デマンド交通の運行実施計画案(H24策定)に沿って、試験運行(H25～H27年度)を実施しながら、必要車両台数、運行時間の分析と既存交通機関との連携等について検討し、南城市型の交通システムの確立を図る。

**実施方法**      直接実施      委託      補助      負担      その他 ( )

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	6,915	51,258			
	(b)予算現額	6,915	29,127			
	(c)増減額(b-a)	0	22,131			
	(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)	6,915	29,127			
	B.執行済額	6,825	26,925			
	うち交付金充当額	5,460	21,539			
	次年度繰越額	0	0			
	執行率(%) (B/A)	98.7%	92.4%			
予算の状況の説明	実証実験を9ヶ月で計画(当初4月交付予定)していたが、交付が7月となり、実証実験を4ヶ月に短縮実施したことによるものと実証実験の受付、運転業務について、シルバー人材センターへ委託することで人件費が大幅に減額となったことにより当初予算額と予算現額に乖離が生じている。					

活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)	達成状況			
		25年度	26年度	27年度	28年度
・地域公共交通会議の開催 ・運行管理システムの構築	目標	3回構築		( )	( )
	実績	3回構築			
試験運行の実施 ・登録者数 ・延べ利用者数	目標	830人 100人/日		( )	( )
	実績	1,144人 57.8人/日			
達成状況説明	平成24年度において作成された実施計画に基づいて、平成25年12月より無償での実証実験を行った。実証実験が短期間であった為、周知期間が少なく、延べ利用者数の一部で目標達成できなかった。マスメディア(TV、新聞)、市公式ホームページ、広報誌等を活用し情報発信を行い、登録者数においては、目標値を上回ることができた。また、次年度の有償実証に向けて、交通事業者をはじめ関係団体からなる組織での会議(南城市地域公共交通会議)も目標どおり行うことができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)	基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
			25年度			
・地域公共交通会議の開催 ・運行管理システムの構築	目標	( )	3回構築		( )	( )
	実績		3回構築			
試験運行の実施 ・登録者数 ・延べ利用者数	目標	( )	830人 100人/日		( )	( )
	実績		1,144人 57.8人/日			
進捗状況説明	実験期間が短期間となったが、冬場の実証を行うことができた。実証実験最終の3月の第3週目においては、84.9人/日(平日:108.3人/日)まで利用者を伸ばすことができている。また、平成26年度の下半期の有償実験に向け、地域公共交通会議を3回開催し、有償実験の準備を進めている。					

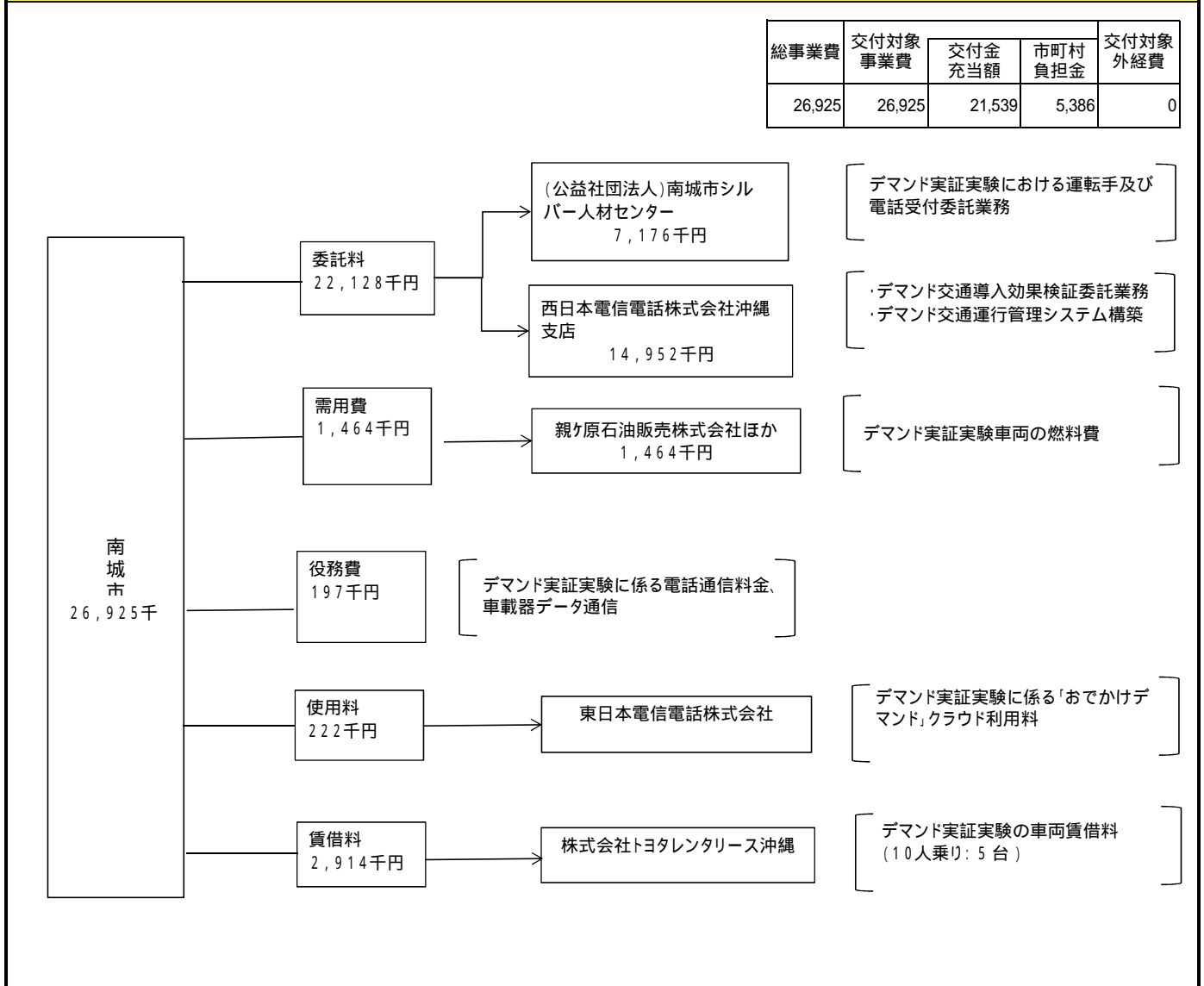
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>市内の道路によっては、現在の車両では、小回りができない箇所があり、車両について検討が必要。</p> <p>観光客への周知方法については、市の公式ホームページ、空港、道の駅、宿泊施設(那覇市、南城市)等となっていたが、それだけでは思うように周知出来なかった。市民のように口コミ等で広がりやすく、情報の配信方法を検討する必要がある。</p>	<p>観光客への周知については、市内のペンション、民泊事業者への周知、その他の方法を模索し、更なる利用者の獲得を狙う。</p>

**今後の取り組み方針**

季節(夏場、冬場)により、活動時間帯の変化等を確認する為、平成26年度上半期においては、昨年度に引き続き無償での実証実験を行い、運行時間帯、適正な車種及び車両台数を把握する。また、車両は一部小型化(10人乗り 8人乗り)することで小回りをきかすなどの改善を図る。下半期においては、上半期のデータ及び昨年度のデータをもとに、有償での実証実験を行う。

有償実証実験においては、事業が引き続き継続できるものとなるよう、既存の運行事業者に委託し、既存の公共交通機関、市内事業者等との連携についても検討し本格運行を目指す。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 用 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>検証等委託事業者は、公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を助案した上で選定、また、実証実験における運転手及び電話受付委託業務については、地方自治法施行令第167条の2第1項第3号によりシルバー人材センターへの随意契約であり、妥当であったと考えている。</p> <p>車両賃借については、(条件付)競争入札により選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1- 南城市観光誘客対策事業(お新下り活用事業)		沖繩21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ウ		
	担当部課名	企画部 観光商工課	事業実施(予定)年度	平成25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)	
事業内容	平成24年度に南城市まつりで実施したお新下り再現事業の備品等(衣装・道具類)を活用し、県外での観光客の誘客及び南城市特産品の販売促進を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	10,000				
		(b)予算現額	5,000				
		(c)増減額(b-a)	5,000				
		(d)繰越額					
	A.計(b+d)		5,000				
	B.執行済額		4,998				
	うち交付金充当額		3,998				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初計画していた演目等の内容変更に伴い出演者が減ったことから、事業費(旅費等)を減額したため。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	聞得大君お新下り～古の島祈りのしま琉球～公演及び南城市物産展の開催(12月21日～23日開催予定)	目標	(平成25年12月21日～23日)	( )	( )	( )	
		実績	平成25年12月21日～23日				
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	今回、沖縄県外において南城市をPRするため、新潟県長岡市において公演を行うことにより、誘客促進及び南城市観光協会による物産販売も行うことが出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	聞得大君お新下り～古の島祈りのしま琉球～公演来場者数 500名	目標	( )	(500名)	( )	( )	( )
		実績		450名			
	[参考指標]	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	公演日が三連休の中日であったため、他のイベントと重なったと推察されたため集客が思うように見込まれなかったが、南国沖縄の公演を県外で行ったことは、雪国に住む方にはより一層強い沖縄への憧れのイメージを抱き、南城市のPR効果が期待出来たと思われる。					

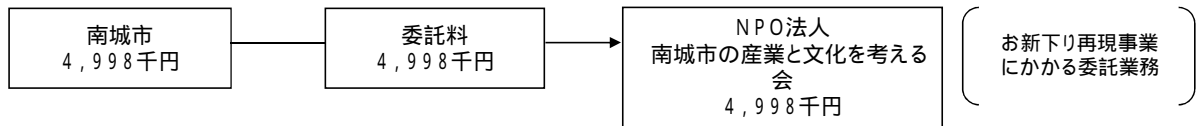
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	「お新下り」を活用し県内外観光客誘致につなげる必要があるが、公演の日程調整や出演交渉等に時間を要する。また、それに伴い観光協会とのタイアップが効果的であると思われる。	公演場所の選定や関係スタッフ及び出演者の日程調整等、スムーズに行えるような改善方法を検討することにより継続推進に繋がり、県内外のメディア媒体を活用しながら、広報活動を集中的に行っていくことによって、南城市のPR及び集客に繋がっていくと考える。 また、観光協会と販売場所の規模や条件等に綿密な連携が必要になってくると考える。

**今後の取り組み方針**

沖縄県外において南城市の魅力を最大に活かし宣伝するためには、「聞得大君のお新下り」公演を県外の方にも分かりやすい字幕テロップを利用し鑑賞して頂き、観光協会とも連携を密にし物産販売を行うことにより、南城市のPR商品として、今後更にバージョンアップを図りながら観光客の誘客に取り組んでいければと考える。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
4,998	4,998	3,998	1,000	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託業者は、公募型プロポーザル方式により、提案内容、企業組織、実績等を勘案したうえで選定しており、妥当であったと考えている。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

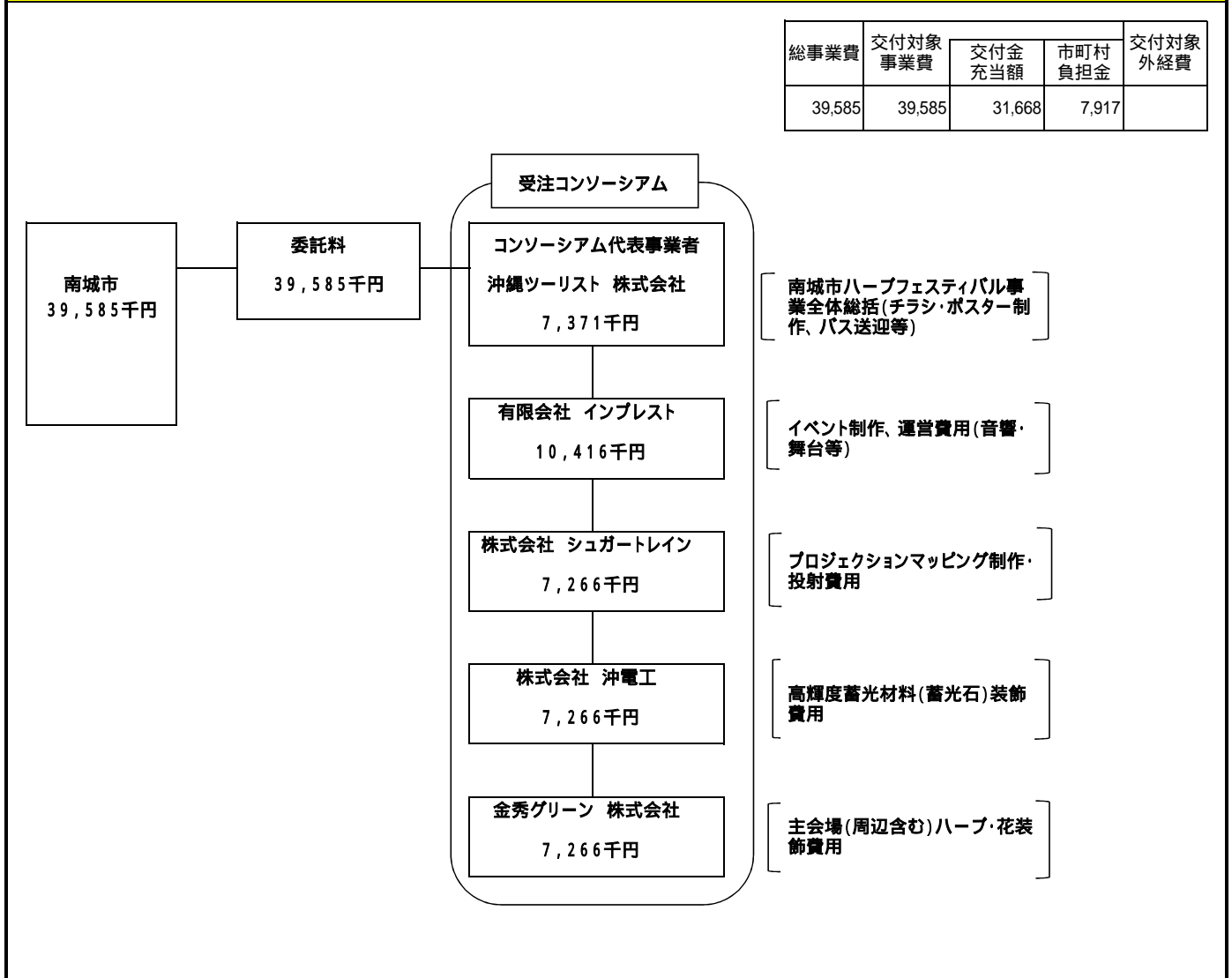
市町村名		南城市						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1 - 南城市ハーブフェスティバル観光客誘客事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-イ			
	担当部課名	企画部 観光商工課	事業実施(予定)年度	平成25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)		
事業内容	南城市はハーブの一種である「ウコン」の発祥地であり、ハーブを活用した健康食品製造業者も存在します。今年の11月22日に「第21回全国ハーブサミット南城市大会」を開催することが決定しており、南城市では11月22日から24日までの3日間、「南城市ハーブフェスティバル」を同時開催します。期間中の観光客の更なる誘客を図り、県内外に南城市のハーブ産業をPRする目的でイベントを開催する。沖縄県内では初めてとなる「プロジェクションマッピング」の開催と、「高輝度蓄光材料」を使用して幻想的な空間の演出を行う。							
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )							
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	39,621					
		(b) 予算現額	39,621					
		(c) 増減額 (b-a)	0					
		(d) 繰越額	0					
		A. 計 (b+d)	39,621					
	B. 執行済額		39,585					
	うち交付金充当額		31,668					
	次年度繰越額		0					
	執行率 (%) (B/A)		99.9%					
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施したほか、活動目標、成果目標が達成できた状況を鑑みると適正に執行されたと考えている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況					
			25年度	26年度	27年度	28年度		
	南城市ハーブフェスティバル開催(11月22日(金)～24日(日))	目標	(平成25年11月22日～24日)	( )	( )	( )	( )	
		実績	平成25年11月22日～24日					
		目標	( )	( )	( )	( )		
	実績							
達成状況説明	今回の事業は、「南城市ハーブサミット」、「半島芸術祭in南城」、「憩いのオープンガーデン」を同時開催したことにより、多くの来訪者が南城市の地を訪れました。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
	・期間中の観光客誘客総数:1万人 ・南城市のハーブ産業のPR(新聞告知、ラジオ出演、チラシ配布) ・「プロジェクションマッピング」や「高輝度蓄光材料」を使用したハーブPRイベントの開催	目標	( )	10,000人 ハーブ産業のPR ハーブPRイベント	10,000人 ハーブ産業のPR ハーブPRイベント	( )	( )	
		実績		15,725人 ハーブ産業のPR ハーブPRイベント開催	15,725人 ハーブ産業のPR ハーブPRイベント開催			
	【参考指標】 南城市ハーブフェスティバルの総経済効果額(生産額ベース) ・経済効果検証:琉球大学観光産業科学部 金城盛彦教授		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績			1億9,500万円			
進捗状況説明	来場者数内訳:11月22日(金)1,978人、23日(土)7,050人、24日(日)6,697人 ・新聞告知(14回*琉球新報)、ラジオ出演1回(当日朝*RBCiラジオ)、チラシ配布(チラシ3万部、ポスター400部 リーフレット1万5千部) ・県内初開催となる「プロジェクションマッピング」と「高輝度蓄光材料(蓄光石)」を使用した幻想的な空間演出を行い観客を魅了しました。 ・ハーブや花での主会場周辺の装飾は、市内幼稚園児の協力もあり好評であった。 ・「プロジェクションマッピング」、「高輝度蓄光材料」を使用した県内初のイベントが成功し、モデル事業として広く県内へ認知された。							

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	ハーブフェスティバル開催に向け、より多くのハーブや花を育て会場を装飾する為に、市内の小・中学校や地域の緑化ボランティア団体等との連携が無かった。	会場内の一部の装飾に、市内幼稚園児に協力依頼を行った。次回は市内小・中学校の児童・生徒、市内ボランティア団体まで広め、協同で作業を行うことで、親近感や一体感が深まり、地域密着型のより良いイベントとなることが期待できる。

**今後の取り組み方針**

「ハーブのまち南城」を県内外へPRするのももちろんのこと、市内の小・中学生にも知ってもらえるようなハーブに関するイベントを継続して実施していきたい。祭りやイベント、旅行商品として「プロジェクションマッピング」や「高輝度蓄光材料(蓄光石)」を活用出来るよう取り組んでいきたい。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の流れ、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は公募型プロポーザル方式で募集し、5社の中から企画書・プレゼンテーションにて選定しており、妥当であったと考えられる。 費目・用途においては、完了検査時に細かく精査しており、目的外使用は無く適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南城市						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 -	雇用サポートセンター就労支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 3 - (10) - ア	
担当部課名	企画部 観光商工課	事業実施(予定)年度	平成24～25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	雇用機会の創出・拡大と求職者支援 - 2	
事業内容	新たな雇用の機会を創設するため、就労を希望する市民を人材として登録し、人手不足に悩む農家や事務所等に人材情報を提供する。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他 (   )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	782	988			
		(b)予算現額	745	985			
		(c)増減額(b-a)	37	3			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		745	985			
	B.執行済額		745	985			
	うち交付金充当額		596	787			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	雇用創出サポートセンター登録者数	目標	( 100人 )	( 100 )	( )	( )	
		実績	250人	150人			
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	雇用状況の改善に向けて、関係機関との連携を図り、本事業の内容を市民、市内事業所等へ広報したことで、目標としていた登録者数100名を上回る成果をあげることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	雇用創出サポートセンター登録者数	目標	( )	( 100人 )	( 100 )	( )	( )
		実績		250人	150人		
	[参考指標]	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	雇用創出サポートセンター登録者数が、目標の100人を上回り150人の登録を達成し雇用サポートセンター活動の認知度が少しづつではあるがあがってきている。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>登録者数は目標達成しているが、実際就労では就職率が低く求職登録者の中には、職務経歴書の書き方や、面接時のマナー等がわからず不安を抱いたまま来庁する方、就業意欲低い方もいる。</p>	<p>求職者の相談に適宜でより細かなアドバイスを行い、就労意識の向上を図ることが必要である。また、地域における雇用促進及び生産農家や事業所と未就業者のミスマッチ等を解消することで、市内の雇用機会創出を目指していく必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>ハローワークや関係機関との一層の連携強化を図り、求職者の相談に適宜でより細やかなアドバイスや就労意識の向上に繋がる情報提供等を継続して実施する。</p>		

資金の流れ					
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	985	985	787	198	0

資金の流 れ、費 目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・就労支援に必要な人件費(勤務時間:1日当たり5.5時間)であり適正である。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		



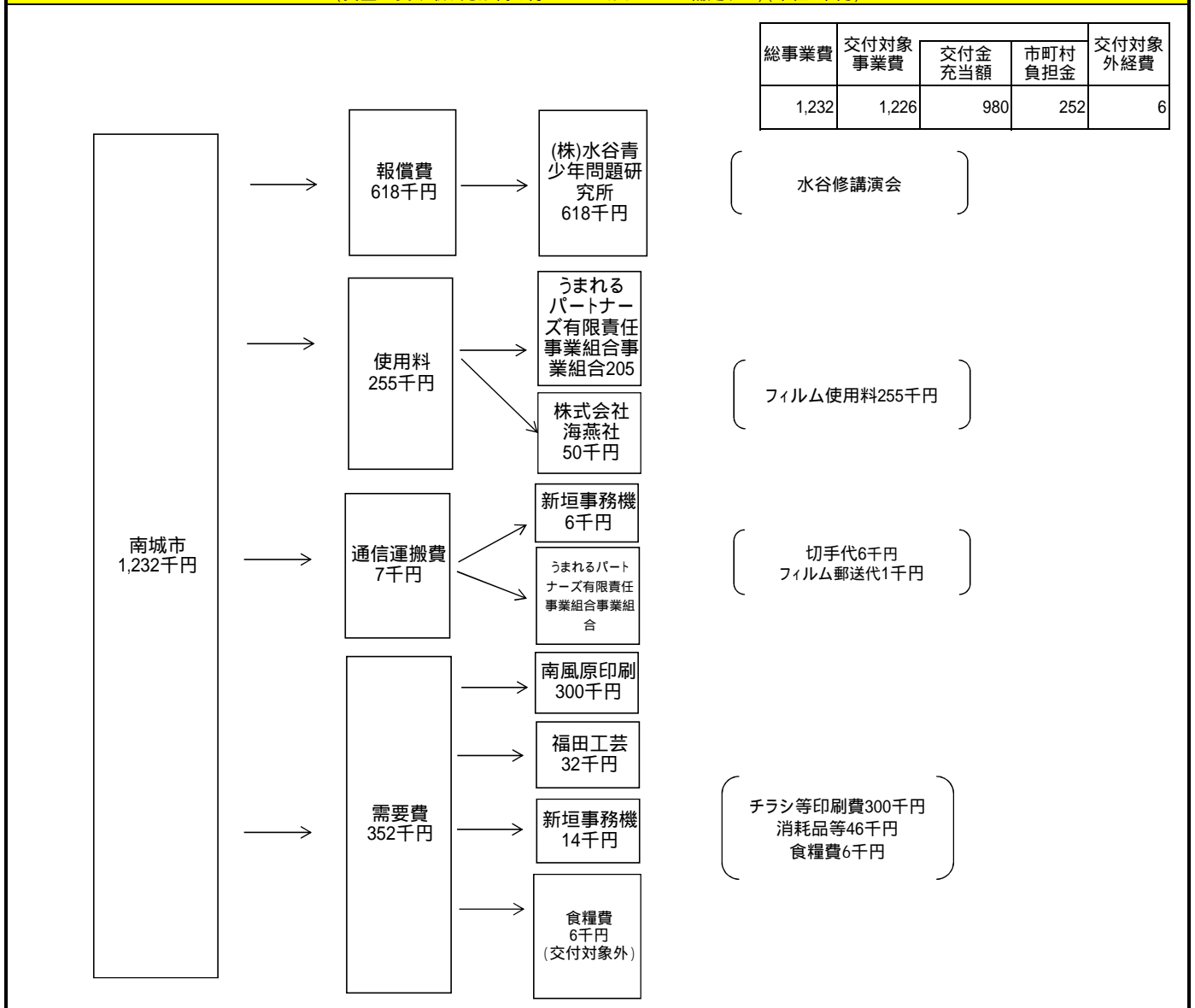
<b>市町村名</b>		南城市					
<b>平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】</b>							
<b>事業番号・事業名</b>	3-	平和発信プロジェクト事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章 - 4 - (2) - ウ		
					アジア・太平洋地域の安定と平和に資する平和・人権協力外交の展開		
<b>担当部課名</b>	企画部 まちづくり推進課	<b>事業実施（予定）年度</b>	平成24年度～平成28年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	- 12		
<b>事業内容</b>	戦後68年が経過し、沖縄戦の記憶が薄れている中、改めて市民1人ひとりが平和や命の大切さを考える機会として、南城市独自で制定した平和の日（8月10日）に講演会、8月3日、4日に映写会を実施した。						
<b>実施方法</b>	直接実施      委託      補助      負担      その他（ ）						
<b>予算額・執行額</b> 【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		(b) 予算現額	348	1540			
		(c) 増減額 (b-a)	348	1540			
		(d) 前年度繰越額	0				
		A. 計 (b+d)	-				
	<b>執行額</b>	B. 執行済額	348	1232			
		うち交付金充当額	278	278			
		次年度繰越額	0	0			
	執行率（％）(B/A)		100.0%	80.0%			
	予算の状況の説明		不用額が278千円発生しているが、当初予定していた講師や映写会の映画が変更になったことによる残である。当初予定していた事業内容はすべて実施しており、適正に執行されたと考えている。				
<b>活動目標（指標）及び達成状況</b>	H24活動目標（指標）		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	講演会「夜回り先生 いのちの授業」	目標	( 1回 )	( )	( )	( )	
		実績	( 1回 )				
	映写会「ふじ学徒隊」、「うまれる」	目標	( 2回 )	( )	( )	( )	
		実績	( 2回 )				
達成状況説明	南城市独自に策定した平和の日（8月10日）に、シュガーホールにおいて「夜回り先生 いのちの授業」と題して水谷修氏の講演会を開催した。また、8月3日、4日には映写会（「ふじ学徒隊」、「うまれる」）を開催した。						
<b>成果目標（指標）及び進捗状況</b>			基準値 (24年度)	25年度	26年度	27年度	目標値 (28年度)
	講演会「夜回り先生 いのちの授業」	目標	( )	( 400 )	( )	( )	( )
		実績		431名			
	映写会「ふじ学徒隊」、「うまれる」	目標	( )	( 300 )	( )	( )	( )
		実績		292名			
	進捗状況説明	講演会については、目標人数を達成したが、映写会については目標人数を若干下回ってしまった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	8月10日にシュガーホールにおいて「夜回り先生 いのちの授業」と題して講演会を実施、8月3日、4日には映画会(「ふじ学徒隊」、「うまれる」)を開催した。参加者へのアンケートでは、ほとんどの方が内容について「よかった」と回答しており、あらためて「身近なしあわせ」「心の平和」について考える機会となった。 ただし、映画会を実施した日は、市や地域の行事が重複してしまい予定していた参加者数を下回った。	市内のイベントと重ならないように調整することで、より多くの市民が参加可能となる。

**今後の取り組み方針**

今後は、より多くの市民が平和や命の大切さを考える機会となるよう、周知活動を徹底し、また他の行事との重複がないよう十分調整したうえで、講演会等の催し物を継続して開催したい。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流、費目・用途の流、点検項目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南城市						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-		系数壕平和学習施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(2)-ウ		
	担当部課名		企画部 観光商工課	事業実施(予定)年度	平成25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	アジア・太平洋地域の安定と平和に資する平和・人権協力外交の展開 - 1 - (1)	
事業内容	<p>系数アブチラガマとは、沖縄本島南部の南城市玉城字系数にある全長270mの自然洞窟(ガマ)で、沖縄戦当時、系数集落の避難指定壕であった。戦場が南下するにつれて南風原陸軍病院の分室となり、軍医、看護婦、ひめゆり学徒隊が配属され、600人以上の負傷兵で埋め尽くされた。現在は、平和学習の場として利用され年間約11万人余の修学旅行生等が訪れているが、壕内では、天井からの漏水、壁底面からの流入水等がある。また、手摺の腐敗や劣化が起きていることから、早急に見学者の安全対策の強化及び対策を図る必要がある。</p>							
実施方法	<p>直接実施      委託      補助      負担      その他 ( )</p>							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d)			1,229				
				1,229				
				0				
				1,229				
			B. 執行済額					
			うち交付金充当額					
			次年度繰越額					
			執行率(%) (B/A)					
		88.6%						
予算の状況の説明		<p>不要額が130千円発生しているが、工事数量等の変更による設計価格の変更によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施したほか、活動目標、成果目標が達成できた状況を鑑みると適正に執行されたと考えている。</p>						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況					
			25年度	26年度	27年度	28年度		
	手摺工事の着手	目標	( 手摺工事の着手 )	( )	( )	( )		
		実績	手摺工事の着手					
		目標	( )	( )	( )	( )		
実績								
達成状況説明	<p>既存の木手摺の撤去及び新規手摺の設置を完了することができた。            既存の木手摺の撤去      新規手摺の設置      約22m</p>							
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)	
	手摺工事の実施、完了	目標	( )	手摺工事の実施、完了	( )	( )	( )	
		実績		手摺工事の実施、完了				
	[参考指標]		目標	( )	( )	( )	( )	
			実績					
進捗状況説明	<p>安全対策を施すことにより、見学者への安全が確保され、平和学習の場としての活用促進が期待できる。</p>							

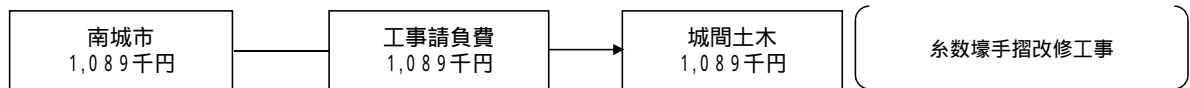
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全対策を施すことにより、見学者への安全が確保され、平和学習の場としての活用を促進していく。</li> <li>年間の入場者数が年々伸び悩んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理制度を導入し、入場者数の増加、運営体制の強化を図るため民間事業者のノウハウを活用する。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

平成26年度より当施設の運営を指定管理者に委託しており、指定管理者と連携しながら、系数アブチラガマを貴重な平和学習の体験施設として県内外へ発信し入場者数の増加を目指す。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,089	1,089	871	218	



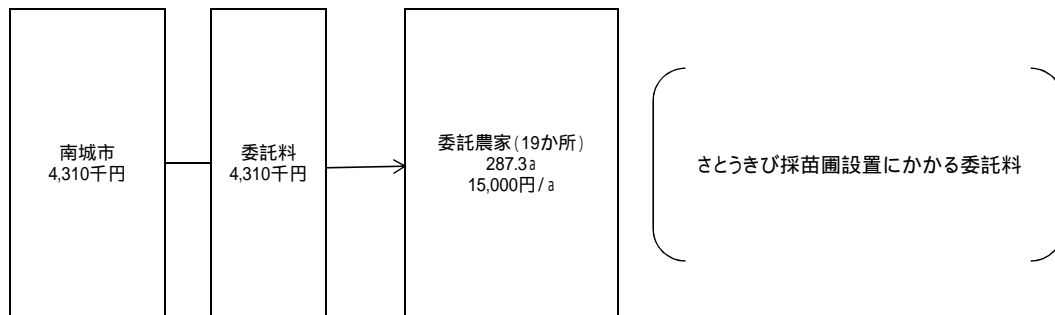
資金の用途の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	設計価格が地方自治法施行令第167条の2第1項第1号定める額の範囲内であることから随意契約を行った。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4- さとうきび優良種苗安定確保事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(7)-ア		
	担当部課名	産業建設部 産業振興課		事業実施(予定)年度	平成24～28年度	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備	
事業内容		沖縄県の基幹作物であるさとうきびについては、平成6年度からの品質取引制度の導入に伴い多収性品種から高糖性品種への転換が推進されている。安定した農家所得の向上、さとうきびの生産向上を図るため、優良品種作付の普及を推進する。					
実施方法		直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )					
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	3,750	4,500			
		(b)予算現額	3,750	4,500			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	0			
	A.計(b+d)		3,750	4,500			
	B.執行済額		3,750	4,310			
	うち交付金充当額		3,000	3,447			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	95.8%			
予算の状況の説明		190千円の不要額が発生しているが、計画通りに委託先農家の確保ができなかったためである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	採苗圃設置面積:300a 夏植:60a 春植:240a	目標	( 300a )	( 300a )	( )	( )	
		実績	250a	287.3a			
		目標	( )	( )	( )	( )	
実績							
達成状況説明	市内農家に採苗圃の設置を委託し、優良種苗を増殖、配布することができた。平成25年度の委託面積は287.3a(春植227.2a、夏植60.1a)である。一部、農家の希望する品種構成ができず、配布割り当て率にばらつきが出た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	さとうきび優良種苗植付面積(アール)	目標	( 2,204 )	( 1780a )	( 2040a )	( )	( )
		実績		1448a	1964.2a		
	〔参考指標〕	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明	前年度よりさとうきびの収量も増え、優良種苗の普及促進ができた。しかし、気象状況、ほ場条件等により苗の生育状況にばらつきがある。目標どおり配布ができるよう苗管理等について関係機関と連携をとり事業推進する。						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>自然災害により苗の生育状態にばらつきがでる。 原苗圃の品種・面積等の希望がとらず(自然災害による苗不足等)、計画通りに種苗を普及させることが難しい。 圃場、農家により生育状況に差がある。</p>	<p>気象条件に応じた各種対策の周知、研究し、補植用苗の植付を行う。 割り当て数拡充要望及び地域別の品種選定を行う。 委託仕様書及び栽培基準等により管理方法の標準化。土地に適した栽培方法の研究。補植用苗の植付。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>平成26年度より市単独事業となるが、さとうきび生産向上にむけ優良品種の普及に取り組む。 圃場管理の委託仕様書や検査チェック等を作成し、苗質の向上と均一化を図る。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,310	4,310	3,447	863	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>委託農家は、市内さとうきび生産組合の組合長より候補を挙げてもらい、その中から経営規模、実績、知識を助案した上で剪定しており、妥当だと考える。 費目・用途については、事業目的達成の観点から必要か等について仕様書との照合及び生育調査の結果、適正であった。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	南城市						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4 -	漁港巻上機・施設機能強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-カ	
担当部課名	産業建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24～25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	亜熱帯・島しょ性に適合した農林水産業の基盤整備 - 1 - (6)	
事業内容	水産業の振興を促進するため、巻き上げ機施設の機能強化事業を実施する。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他 (   )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	13,828	10,339			
		(b)予算現額	13,828	13,197			
		(c)増減額(b-a)	0	2,858			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		13,828	13,197			
	B.執行済額		13,828	12,950			
	うち交付金充当額		11,062	10,360			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	98.1%			
予算の状況の説明		平成25年度において、執行率が98.1%(不用額247千円)となったのは工事費の入札残によるものである。当初海野漁港のみの設置予定であったが、奥武漁港も設置したため増額して実施した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	巻き揚げ機設置件数 1件(海野漁港)	目標	( 2件 )	( 1件 )	(   )	(   )	
		実績	2件	2件			
		目標	(   )	(   )	(   )	(   )	
		実績					
達成状況説明	平成24年度は志喜屋漁港と久高漁港、平成25年度は海野漁港及び奥武漁港への巻上機施設の設置に対し、知念漁業協同組合へ補助した。平成25年度は海野漁港のみの予定であったが奥武漁港の巻上機も追加で施工した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	海野上下架可能漁船の台数:9隻	目標	(   )	( 11隻 )	( 9隻 )	(   )	(   )
		実績		11隻	14隻		
	〔参考指標〕	目標	(   )	(   )	(   )	(   )	(   )
		実績					
	進捗状況説明	巻上機施設を設置し、台風襲来時に漁船を敏速に陸揚げし避難でき、また、補修等が必要となきも陸揚げが可能となった。					

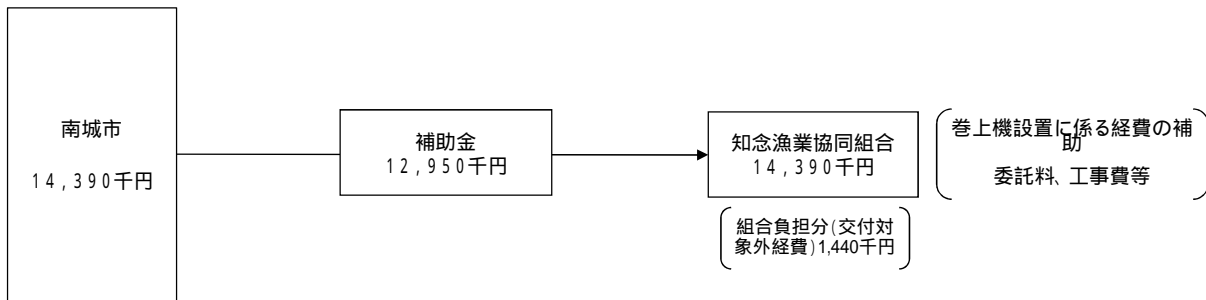
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	志喜屋、久高、海野、奥武の各漁港に巻上機を設置し、台風襲来時における漁船の陸揚げ及び補修等が可能となったが、漁船1隻を陸揚げするのに30分以上の時間を要するため連携を強化し時間の短縮等、敏速な対応が必要となる。	事業計画どおり事業を実施し、活動目標、成果目標ともに達成できたが、今後は台風襲来時等における陸揚げに敏速に対応するため、本市、漁協、漁業者との連携を強化し緊急時体制を構築する必要がある。

**今後の取り組み方針**

今後は台風襲来時における漁船の転覆等の被害を防ぐため、また、漁船の長寿命化を図るため定期的な保守、修理等を行うよう漁協において適正な運用管理を実施し、本市においてそれを指導監督する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,390	12,950	10,360	2,590	1,440



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	総事業費の9割について、市から知念漁業協同組合に補助金を交付した。(残り1割は漁協負担) 漁協から業者への委託料及び工事請負費の契約及び支出については、関係書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		



市町村名	南城市						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-	全国ハーブフェスティバル(ハーブ普及・促進事業)			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
担当部課名	産業建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 - 1 - (6)	
事業内容	南城市産ハーブ商品の展示、即売会、ハーブカフェ、講演会等ハーブに重点を置いたハーブフェスティバル(サミット)を開催し、農業の振興を図る。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他 (   )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,500				
		(b)予算現額	2,500				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	2,500				
	B.執行済額		2,499				
	うち交付金充当額		1,999				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初の事業計画及び成果目標を鑑みて適正な執行であったと判断する。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	ハーブの植栽:1,000本	目標	( 1,000本 )	(            )	(            )	(            )	
		実績	2,140本				
		目標	(            )	(            )	(            )	(            )	
		実績					
達成状況説明	多種のハーブを会場で展示・装飾し、その後、ハーブの認知度を高めより多くの市民への普及を目指して当初計画より種類を増やし、市内公立学校等の公共施設への植栽及び市民への配付を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	来場者数:300名	目標	(            )	( 300人 )	(            )	(            )	(            )
		実績		327人			
	[参考指標]	目標	(            )	(            )	(            )	(            )	(            )
		実績					
	進捗状況説明	ハーブについての基調講演及びパネルディスカッション並びに会場への様々なハーブを展示することでハーブの多様性や必要性を多くの方々に周知することができハーブの大いなる可能性について再認識することができた。					

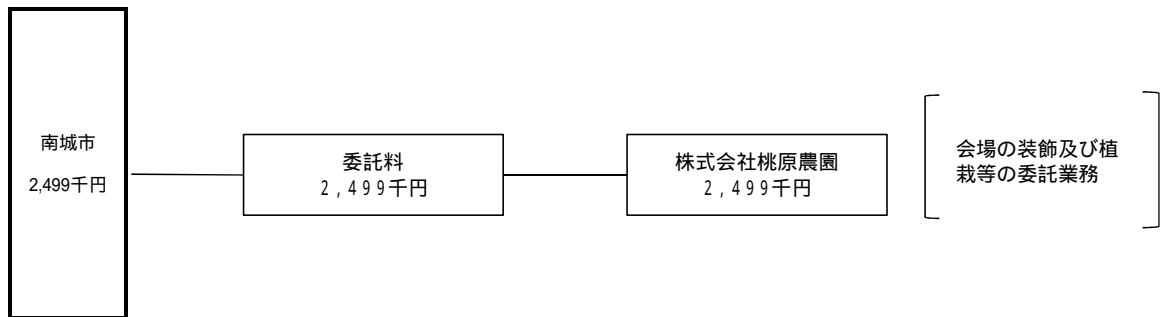
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>来場していただいた市民や企業等の方々へハーブの効能や必要性を認識させることができ、今後のハーブ生産の重要性を周知することができた。</li> <li>ハーブ栽培の振興を図るため人材及び農地の確保が必要である。</li> <li>生産後の出口を確保する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の改善策として、JA及び先進的に栽培・生産を行っている農家と連携し生産組合等の設立等新たな仕組みづくりを目指す。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

ハーブに対する認識を参加者へ植えつけることができたことで一定の効果があつたと考えるが、今後ハーブ栽培を市の新たな1次産業として農業振興の発展を推進するためには、栽培技術並びにさらなる知識の向上を図り、農家の農業規模拡大及び農業所得を向上させる必要がある。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,499	2,499	1,999	500	0



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者指名競争入札にて選定しており、妥当であったと考えている。 事業目的達成の観点から必要最小限の経費を支出しており適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-	水溶性天然ガス利活用案策定事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-I	
担当部課名	産業建設部 産業振興課		事業実施(予定)年度	平成25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化 - 1 - (6)	
事業内容	市内から採掘される水溶性天然ガスを利用した、一次産業分野への利活用案を策定する。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他 (   )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	10,000				
		(b)予算現額	10,000				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額					
	A.計(b+d)		10,000				
	B.執行済額		4,983				
	うち交付金充当額		3,985				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		49.8%				
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。 沖縄県が行っている試掘事業の成分分析結果が平成26年度に提供される事となった。南城市としては、その結果を踏まえて詳細な利活用案を策定していく計画となっていることから、減額して事業を実施した。平成26年度に継続して事業を行う。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	南城市水溶性天然ガス利活用案策定報告書の作成	目標	( 報告書の作成 )	(                    )	(                    )	(                    )	
		実績	報告書の作成				
		目標	(                    )	(                    )	(                    )	(                    )	
		実績					
達成状況説明	水溶性天然ガス利活用案の概要版を作成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	南城市水溶性天然ガス利活用案策定報告書の作成	目標	(                    )	報告書の作成	(                    )	(                    )	(                    )
		実績		報告書の作成			
	[参考指標]		目標	(                    )	(                    )	(                    )	(                    )
			実績				
	進捗状況説明	H26年度は、H25年度で作成した水溶性天然ガス利活用案の報告書をもとに、より具体的な利活用の報告書を作成予定である。					

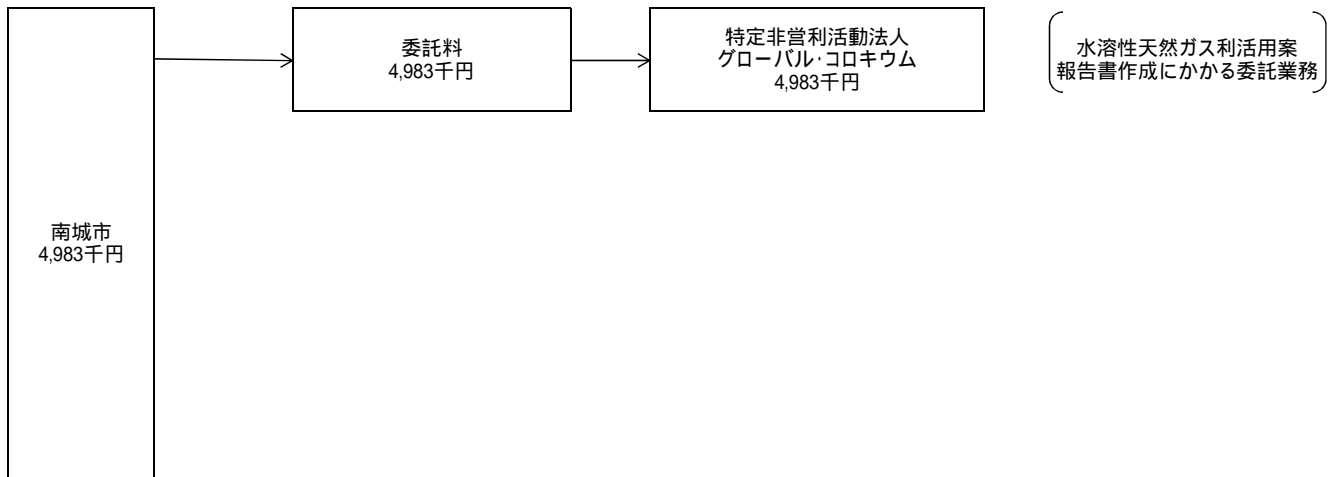
	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>試掘ヶ所周辺は優良な農地であり、温泉熱利用や天然ガス利用等様々な可能性がある。沖縄県からの成分分析結果を踏まえ、農家等と協議し今後の利活用を計画する必要がある。また、事業主体が官民どちらで行うかも併せて検討が必要である。また、試掘ヶ所からの温泉水の排水については、近接する河川への放流が考えられるが、下流側で農業用として取水している農家があり、塩分等の残留に懸念がある</p>	<p>温泉水の排水処理方法等については河川水等により希釈するなど、慎重に検討したい。</p>

**今後の取り組み方針**

水溶性天然ガスの利活用については、沖縄県が行っている試掘事業による成分分析結果の報告書が平成26年度に提供される事となり、南城市としてその後、実現可能な利活用案を作成する必要がある事から、計画を延長して実施していく。また、成分分析の結果により、一次産業以外の産業でも活用が可能となった場合は、様々な分野での活用も検討したい。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,983	4,983	3,985	998	



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は公募型プロポーザル方式により提案し選定しており妥当であったと考える。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5 -	災害に強いまちづくり推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 2 - (4) - イ	
担当部課名	総務部 総務課	事業実施(予定)年度	平成24～25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化 - 10 - (2)	
事業内容	災害が発生した場合の住民や観光客への安心安全を確保するため、海拔表示板を設置する。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	1,505	2,000			
		(b)予算現額	1,505	2,000			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)		1,505	2,000			
	B.執行済額		1,505	1,812			
	うち交付金充当額		1,204	1,449			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	90.6%			
予算の状況の説明		不要額が188千円発生しているが、入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	海拔表示板の設置	目標	( 200か所 )	( 310か所 )	( )	( )	
		実績	200か所	420か所			
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	海拔表示板の設置について目標310か所設定していたが、津波発生時の避難体制の強化の見地から再度検証し、追加設置を行い目標以上に整備することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	海拔表示板の設置	目標	( )	( 200か所 )	( 310か所 )	( )	( )
		実績		200か所	420か所		
	[参考指標]	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	海拔表示板の整備により、津波発生時に市民及び観光客をより安全な避難場所に誘導する事が期待できる。					



市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5 - 台風・大雨浸水被害対策事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-2-(4)-イ		
	担当部課名	産業建設部 都市建設課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	-10-(2)	
災害に強いまちづくりの実現を図るため、地域の排水路における雨水の流入・流出ルート調査を実施する。							
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）	予算の状況		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		(a)当初予算額	18,375	24,014			
		(b)予算現額	18,375	23,415			
		(c)増減額(b-a)	0	599			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		18,375	23,415			
	B.執行済額		18,375	23,415			
	うち交付金充当額		14,700	18,732			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		599千円の不用額が生じているが、入札残のためである。当初計画していた事業計画内容はすべて実施したので活動目標、成果目標の達成状況を適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	西部地区雨水流域調査	目標	( 調査面積 810ha )	( )	( )	( )	
		実績	調査面積 810ha				
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	流域調査をおこなうことによって適切な排水路整備計画の活動目標が達成できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値	25年度	26年度	28年度	目標値(29年度)
	西部地区雨水流域調査	目標	( - )	( 調査面積 810ha )	( )	( )	( )
		実績		調査面積 810ha			
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	地域の排水路における雨水の流入、流出及び排水能力を調査することで、調査結果を基に冠水箇所の対策を検討して行く。					

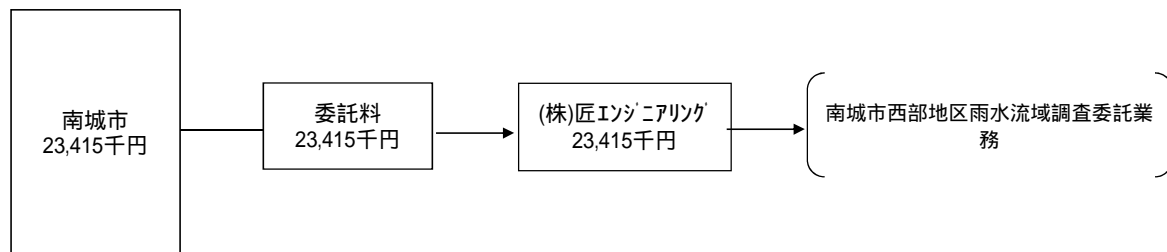
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	今年度は、市内西部地区の雨水ルートの調査を行い、浸水被害の究明ができ、特に問題ないと考えます。	調査結果に基づいた、排水整備計画を立案する。

**今後の取り組み方針**

平成26年度に市内東部地区(玉城・知念)における雨水流域調査を実施し、市内全域の当該調査が終了予定である。調査終了後は、南城市4地区(佐敷・大里・玉城・知念)の大型排水路計画を行い、平成27年度に実施設計、平成28年度より整備することで、自然災害や大雨時による浸水被害等の改善を図っていく予定である。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
23,415	23,415	18,732	4,683	



資金の用途の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出先は、指名競争入札により、業者を選定しており妥当と考えている。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		



市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5 - 観光客及び市民向け放送拡張事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-2-(4)-イ		
	担当部課名	総務部 総務課	事業実施(予定)年度	平成25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	-10-(2)	
事業内容	防災情報インターフェイスサーバーを介して自動連携させることにより、24時間対応でJ-ALERT検知した災害緊急情報を即時に観光客等へ配信し、市民や観光客等の安全、安心を確保する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	24,675				
		(b)予算現額	24,675				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)前年度繰越額					
		A.計(b+d)	24,675				
	B.執行済額		24,675				
	うち交付金充当額		19,740				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施したほか、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	インターフェイスサーバー構築及びシステム構築	目標	(システム設計・構築)	( )	( )	( )	
		実績	システム設計・構築				
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	エリアメール・緊急速報メール自動配信機能(3キャリア)、防災ナビ拡張機能、メールマガジン発行機能、自動安否確認機能、防災情報インターフェイスサーバの構築、玉城地区雨量計設置等、当初計画していた事業内容について目標どおり整備することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	インターフェイスサーバー構築及びシステム構築	目標	( )	システム設計・構築	( )	( )	( )
		実績		システム構築完了			
	[参考指標]	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	システム設計・構築に関してJ-ALERT受信からのエリアメール発信検試験等を行い、適正に事業完了し目標どおり整備することができた。今後J-ALERTで災害緊急情報を検知した際に、エリアメールが発信されることにより市民・観光客等の安全、安心の確保が期待される。					



市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-	英語コーディネーター配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	教育部 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24～25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 -3-(1)	
事業内容	国際性豊かな人材を育成するため、外国人や英会話能力の優れた講師を教育委員会に配置し、英語教諭及びALT等への授業改善や、小学校において英語の授業を実施する。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	1,158	1,934			
		(b)予算現額	1,210	1,934			
		(c)増減額(b-a)	52	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		1,210	1,934			
	B.執行済額		1,210	1,923			
	うち交付金充当額		967	1,538			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.4%			
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	英語コーディネーター配置数 (市教育委員会)	目標	( 1人 )	( 1人 )	( )	( )	
		実績	1人	1人			
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内9小学校の英語T.T(チームティーチング)授業を見学し、授業改善のための指導・助言を実施。</li> <li>市内9小学校の英語授業の担任教諭及びALTと、T.T授業の事前打ち合わせを実施。</li> <li>市立1幼稚園、2小学校において、担任教諭の英語指導助手(ALT)として授業を実施。</li> <li>小中学校の担任教諭及び英語講師の研修会の講師として、英語の指導力向上に取り組んだ。</li> <li>市内各小学校とアメリカンスクールとの基地内交流のサポートを行った。</li> <li>市内各小学校を巡回し学校間の連携やサポート、また、小学校担任教諭とALTのコミュニケーションが円滑に進められるよう支援体制を整えた。</li> </ul>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	支援園児・児童数: 幼稚園1クラス13人、小学校4クラス(1～4年生)105人	目標	( 1人 )	コーディネーター配置1人	コーディネーター配置1人	( )	( )
		実績		コーディネーター配置1人	コーディネーター配置1人		
	[参考指標]		目標	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語に興味・関心をもっている児童・生徒が多く見られるようになった。</li> <li>音声重視の小学校英語活動の充実が図られ、リスニング力の高まりが見られた。</li> <li>英語を口にする事への抵抗が無く、気軽にALTへ話しかける児童・生徒が多い。特に中学校1年生は英語の音声に対する抵抗がほとんど見られず、従来の中学校で初めて英語に触れていた頃の生徒とは明らかに接する態度の変化が見られた。</li> <li>小学校では英語に対する苦手意識から外国語活動に消極的な教師も見られたが、研修会や授業研究会等を重ねた結果、ほとんどの教師がT.T授業のT1として外国語活動を主導することが出来るようになった。(T.T授業:T1…教師、T2…ALT)</li> </ul>						



市町村名	南城市
------	-----

**平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】**

事業番号・事業名	7 - 幼小中学校学習教室空調設備整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ウ
担当部課名	教育部 教育施設課	事業実施(予定)年度	平成24～25年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	-3-(1)

事業内容	児童・生徒の感受性豊かな人格形成を図るため、夏場においても、安全・快適な学習環境を保持できるよう空調設備を整備する。
------	--

実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他 ( )
------	---

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	1,414	10,341			
	(b)予算現額	582	10,341			
	(c)増減額(b-a)	832	0			
	(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)	582	10,341			
	B.執行済額	582	9,824			
	うち交付金充当額	465	7,858			
	次年度繰越額	0	0			
	執行率(%) (B/A)	100.0%	95.0%			
予算の状況の説明	517千円の不用額が発生しているが、工事費の入札残によるものであり、当初計画していた事業計画内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					

活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)	達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度
		空調機設置工事 (幼稚園 保育室 4室 6台 小学校 理科室 1室 2台 中学校 家庭科室 2室 5台 音楽室3台 美術室 2台)	目標	( 空調設置2台 )	( 18台 )	( )
	実績	空調設置2台	18台			
	目標	( )	( )	( )	( )	
	実績					
達成状況説明	幼稚園や小中学校の特別教室へ空調機18台を設置し、活動目標(指標)が達成できた。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
		空調機設置工事 (幼稚園 保育室 4室 6台 小学校 理科室 1室 2台 中学校 家庭科室 2室 5台 音楽室3台 美術室 2台)	目標	( - )	(空調設置2台)	( 18台 )	( )
		実績		空調設置2台	18台		
	{参考指標}	目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明	幼稚園や小中学校の特別教室へ空調機18台を設置し、夏場における安全・快適な学習環境が整った。児童・生徒の学力向上に大きく寄与することが見込まれる。						

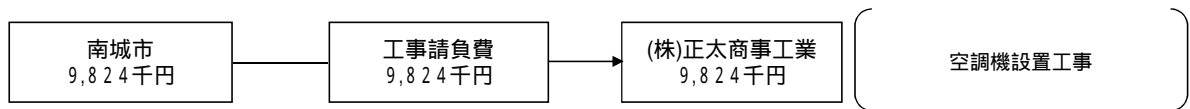
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	空調機を整備することにより、電気代等の維持管理費が負担となる。	太陽光や風力発電などを利用することにより、電気代の節約や地球温暖化防止を図る。

**今後の取り組み方針**

当初は、平成25年度までの小中学校の特別教室の空調設備の整備を予定していたが、幼稚園も夏場の34度を超える劣悪な環境であることがわかったことや、新たに整備を必要とする教室が他にもあるため、予算拡大と期間延長が必要となった。平成26年度に市内幼小中学校等に空調設備を6台整備を行うとともに電気代の節約や地球温暖化防止に努める。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
9,824	9,824	7,858	1,966	



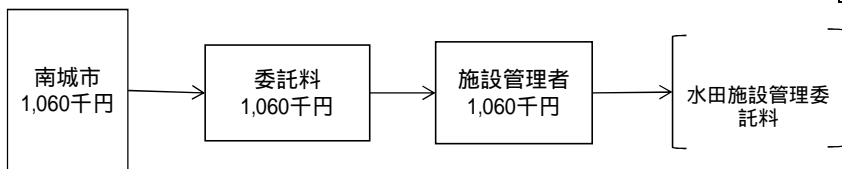
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出先は、指名競争入札により、業者を選定しており妥当と考えている。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-	受水走水田園体験事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
	担当部課名	教育部 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成24～25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 -3-(1)	
事業内容	将来を担う感受性豊かな児童の育成を図るため、沖縄の稲の発祥地とされる受水走水において、体験学習プログラムの一環として稲栽培を実施する。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	795	1,060			
		(b)予算現額	795	1,060			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)		795	1,060			
	B.執行済額		795	1,060			
	うち交付金充当額		635	847			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	田園体験学習 参加者	目標	( 453人 )	( 448人 )	( )	( )	
		実績	467人	448人			
		目標	( )	( )	( )	( )	
実績							
達成状況説明	年間を通し施設の整備や、稲作の育苗から田植え稲刈りの指導、稲栽培管理等以下のまでの全工程を実施した。 ・圃場及び周辺の除草、排水路等整備(H25.4月～H26.3月) ・圃場整備(H25.4月、10月～H26.3月) ・種苗管理(H25.5月) ・田植え(H25.6月)：市内8小学校 6/10～6/20(9日間) 小学5年生448名参加 ・稲管理(H25.6月～8月) ・稲刈り(H25.9月)：市内8小学校 9/9～9/20(9日間) 小学5年生448名参加 収穫量52kg ・藁片付け及び肥料づくり(H25.10月)						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	田園体験学習 参加者	目標	( )	( 453人 )	( 448人 )	( )	( )
		実績		467人	448人		
	【参考指標】		目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
進捗状況説明	沖縄の稲作発祥地と云われ本市の史跡文化財に指定されている受水走水(うきんじゅはいんじゅ)の稲作体験施設において、小学校5年生の社会科の単元「米作り」学習に合わせ、市立8小学校の5年生の児童を対象に、「田植え」や「稲刈り」等の農作業を体験させることで、地域の歴史や食文化を学ぶ機会を設けることができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	当該施設の年間を通しての管理については、委託管理人1人で対応可能であるが、田植えと稲刈りを実施する時期については、1日につき40人程度指導しなければならず、指導の行き届かない状況がある。	田植えと稲刈りの時期については、指導補助員等を増員することで当事業の充実を図る必要がある。
今後の取り組み方針		
地域の人材や文化財資源等を活用した稲作を、市立8小学校の児童を対象に、5年生社会科の単元「米作り」学習に合わせ、勤労観、職業観を育てる体験学習事業として実施することにより、心豊かな人材の育成を図る。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
1,060	1,060	847	213	0



資金の流 れ、費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託者(個人)とは、随意契約により実績や経験、知識等を 助案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なもの のなか等について額の確定時において支出等に関する書類 により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		



市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7 -	スポーツ・文化活動県外派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ	
担当部課名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進 - 3 - (1)	
事業内容	離島県である沖縄の地理的条件により、県外への大会派遣については多大な負担があるため、費用の一部を助成する。負担を減らす事で、県外への派遣の機会を増やし、次代を担う児童生徒の可能性を引き出し、教育の振興、学力向上を図る。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,362				
		(b)予算現額	2,362				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	2,362				
	B.執行済額		1,706				
	うち交付金充当額		1,364				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		72.2%				
予算の状況の説明		不用額が656千円発生しているが、前年度の実績26件:137人を元に予算を計上したところ、今年度は21件:101人とかなり見込みより減ったため。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	H24年度県外派遣実績	目標	( 25件 )	( )	( )	( )	
		実績	21件				
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	県外の大会へ派遣される個人・団体へ、費用の一部として補助金を交付した。(合計21件:なぎなた、サッカー、卓球、ソフトテニス、陸上、バドミントン、吹奏楽、バスケット、ウェイトリフティング、野球、ロボットコンテスト、空手など)						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	県外派遣実績	目標	( )	( 25件 )	( )	( )	( )
		実績		21件			
	[参考指標]		目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
	進捗状況説明	県外の大会へ派遣される個人・団体へ、費用の一部として補助金を交付することによって、青少年の教育振興に寄与した。					



市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-	小中学校パソコン機器整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
	担当部課名	教育部 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 -3-(1)	
事業内容	情報化社会に即応した技能を身につけ、児童・生徒の学力向上を図るため、小・中学校にパソコン機器等を整備する。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他 (   )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	84,099				
		(b)予算現額	70,382				
		(c)増減額(b-a)	13,717				
		(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)		70,382				
	B.執行済額		69,562				
	うち交付金充当額		55,649				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		98.8%				
予算の状況の説明		不要額が13,717千円発生しているが、備品費の入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	市立小中学校へのパソコン機器等の整備(パソコン計302台)	目標	( 302台 )	(   )	(   )	(   )	
		実績	255台				
		目標	(   )	(   )	(   )	(   )	
実績							
達成状況説明	各小中学校普通・特別教室へパソコン機器等を整備し、既存の大型テレビと接続したことで、デジタル教材を活用した授業を実践することが可能となった。また、整備対象教室に普通・特別教室等の空き教室も含んでいたため、当初予定整備台数が減となっている。 ・備品売買契約:69,090千円(H25.9.20締結) 変更契約:472千円(H25.10.1締結) ・市立知念小学校コンピューター教室パソコン機器41台、他周辺機器一式整備 ・市立久高小中学校コンピューター教室パソコン機器16台、他周辺機器一式整備 ・市立知念中学校コンピューター教室パソコン機器41台、他周辺機器一式整備 ・市立佐敷中学校コンピューター教室パソコン機器41台、他周辺機器一式整備 ・市立各小・中学校普通教室教材用パソコン機器116台整備						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	市立小中学校へのパソコン機器等の整備(パソコン計302台)	目標	(   )	( 302台 )	(   )	(   )	(   )
		実績		255台			
	[参考指標]	目標	(   )	(   )	(   )	(   )	(   )
		実績					
進捗状況説明	市内4小・中学校のコンピューター教室のパソコン及び附属機器等一式の整備をしたことで、児童・生徒がICTを利活用する上で必要な知識・技能を習得することが出来た。 また、市内小・中学校全普通教室へパソコン機器等を整備したことで、デジタル教科書を活用した学習活動に取り組むことが可能となり、それにより、児童生徒の授業への興味関心を引きだすことが出来た。 今後は、授業への興味関心のみならず、学力の向上へと繋げて行き、児童生徒の学力の指標となる全国学力学習状況調査の正答率において、全国平均に対しての差が大きく下回っているため、年次的に縮めていきたい。						

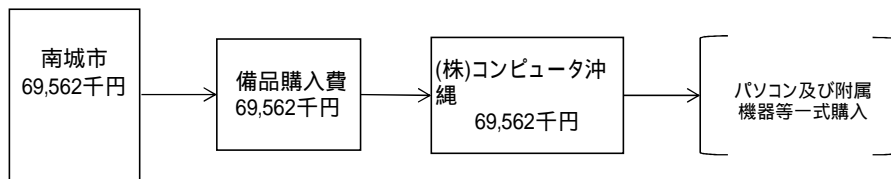
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	市内各小・中学校の普通教室や特別教室等へパソコン機器等を整備したことで、児童生徒がICTを活用する上で必要な知識・技能の習得や、また、当該機器を活用した学習活動に取り組むことができた。しかし、電子黒板やタブレット端末等を活用した学習活動へ向けたICT環境が未整備となっている。	市内各小・中学校の無線LANや電子黒板、タブレット端末等を整備しICT環境が充実することで、デジタル教材等を活用した更に幅の広い学習活動が可能となるため、年次計画的にICT環境の整備充実を図る必要がある。

**今後の取り組み方針**

市内各小・中学校の無線LANや電子黒板、タブレット端末等のICT環境を整備することで、デジタル教材等を活用した更に幅の広い学習活動が可能となるため、児童・生徒の授業への興味関心を引き出し、引いては学力向上へと繋げたい。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
69,562	69,562	55,649	13,913	0



資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
			支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名競争入札方式により選定しており、妥当であったと考えている。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
			予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	南城市
------	-----

**平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】**

事業番号・事業名	7-	学習支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア
担当部課名	教育部 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成25年度	沖繩振興基本方針該当箇所
				確かな学力を身につける教育の推進
				-3-(1)

**事業内容**  
 一斉指導による学習についていけない児童・生徒への教科支援として、習熟度別の学習形態や個別課題としての反復練習・反復訓練や実物の教材・教具による学習、パソコン学習の取り入れにより学習意欲の回復を図る。

**実施方法**  
 直接実施      委託      補助      負担      その他 ( )

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a)当初予算額	17,728				
	(b)予算現額	17,728				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)	17,729				
	B.執行済額	14,185				
	うち交付金充当額	11,347				
	次年度繰越額	0				
	執行率(%) (B/A)	80.0%				
	予算の状況の説明	不要額が3,543千円発生しているが、H26.3月分賃金は市負担としたものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)	達成状況			
		25年度	26年度	27年度	28年度
		小学校学習支援員: 8名 中学校学習支援員: 4名の配置	目標 ( ) ( ) ( ) ( ) 実績 8小学校: 学習支援員8名 4中学校: 学習支援員4名		
達成状況説明	市内各小・中学校へ各1名づつ配置し、学級担任及び教科担当教諭の補助者として、対象児童・生徒の学習支援を実施した。 ・市内8小学校: 学習支援員8名 ・市内4中学校: 学習支援員4名				

成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)	基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
		小学校: 8校、支援児童数294名 (支援員1名当り週25時間授業を行う。1授業当たり3名程度の児童を支援する。) 中学校: 4校、支援生徒数135名 (支援員1名当り週25時間授業を行う。1授業当たり3名程度の生徒を支援する。) [参考指標]	目標 ( ) ( ) ( ) ( ) 実績 8小学校: 学習支援員8名 4中学校: 学習支援員4名			
		進捗状況説明 市内各小・中学校へ学級担任及び教科担当教諭の補助者として、対象児童・生徒への学習支援を実施したことで、学習意欲が高まり、それにより、学力の向上に繋がりました。また、学級の運営も円滑になる。 ・市内8小学校: 学習支援員8名配置(各校1名配置) ・市内4中学校: 学習支援員4名配置(各校1名配置)				
		目標 ( ) ( ) ( ) ( ) 実績				

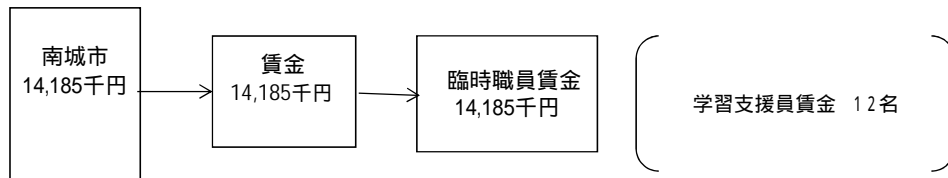
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南城市は児童・生徒の全国学力学習状況調査において下位の状況となっている。</li> <li>・児童・生徒の実態に応じた様々な学習形態を工夫する必要がある。</li> <li>・学級担任と学習支援員の授業へ向けた話し合いの時間の確保が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要教科(算数・国語)への学習支援を実施。</li> <li>・1年、3年、5年、6年の算数科授業への支援の実施。</li> <li>・視聴覚機器を活用した授業の工夫。</li> <li>・2年、6年児童への個別指導や3年、5年児童3～4名程度のグループを作り学習支援を実施。</li> <li>・放課後、各学年毎の曜日毎に補習を必要とする児童・生徒へ補習指導を実施。</li> <li>・放課後、学力強化月間で県到達度調査に向けての補習指導の実施。</li> </ul> <p>以上、市内各学校で在籍者数・学級数が異なることから、学校の状況に応じた学習形態での学習支援を実施し、大規模校の支援員の増員についても改善の余地がある。</p>

**今後の取り組み方針**

当該事業の成果指標となる全国学力学習状況調査等の調査結果を踏まえ、各学校の状況に応じた学習形態による学習支援を実施し、また、現在は学校在籍数・学級数に関係なく各校1名の支援員を配置であるが、大規模校の支援員を増員することで、児童・生徒の学習意欲の向上や基礎学力の定着を図りたい。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
14,185	14,185	11,347	2,838	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>学習支援員について、南城市臨時職員の給与等に関する規則により任用しており、妥当であったと考えている。</p> <p>費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	南城市
------	-----

**平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】**

事業番号・事業名	7-	学習支援教材ソフト導入事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア
担当部課名	教育部 教育指導課	事業実施(予定)年度	平成25～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				確かな学力を身につける教育の推進
				-3-(1)

**事業内容**  
市内各小中学校へ、学習支援教材ソフトを導入しICT環境を整備することにより、児童・生徒の学力の向上を図る。

**実施方法**  
直接実施      委託      補助      負担      その他 ( )

予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		(a)当初予算額	14,618			
	(b)予算現額	10,460				
	(c)増減額(b-a)	4,158				
	(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)	10,460				
	B.執行済額	10,291				
	うち交付金充当額	8,232				
	次年度繰越額	0				
	執行率(%) (B/A)	98.4%				
	予算の状況の説明	不要額169千円は、備品費の入札残である。また、予算減額4,158千円は、当初計画の一部英検ソフト購入について検討した結果、必要がなくなったため一部計画変更により減額したものである。当初の計画を変更した以外の事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)	達成状況			
		25年度	26年度	27年度	28年度
デジタル教科書購入 ・市内9小学校 173冊 ・市内5中学校 57冊	目標	( 小学校173冊購入 中学校57冊購入 )	( )	( )	( )
	実績	小学校173冊購入 中学校57冊購入			
	目標	( )	( )	( )	( )
	実績				
達成状況説明	全小中学校へデジタル教科書を導入したことで、幅の広い学習活動が可能となった。 ・備品売買契約:10,291千円(H25.9.2締結) ・デジタル教科書(市内9小学校 1～6年生各教科(国語/書写、算数、理科、社会、家庭科、地図帳)173冊)購入 ・デジタル教科書(市内5小学校 1～3年生各教科(国語、社会、数学、科学、音楽、器楽、技術、家庭科、トータルイングリッシュ)57冊)購入				

成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)	基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
			デジタル教科書導入率の向上 ・市内9小学校:H24年度4%(7冊) H25年度100% (必要冊数:9校×20冊=計180冊) ・市内5中学校:H24年度48%(53冊) H25年度100% (必要冊数:5校×22冊=計110冊) 【参考指標】	目標	( )	小学校173冊購入 中学校57冊購入
	実績		小学校173冊購入 中学校57冊購入			
	目標	( )	( )	( )	( )	( )
	実績					
進捗状況説明	市内全小・中学校へデジタル教科書を導入し、それを活用した学習活動に取り組むことが可能となったため、児童・生徒の授業への興味関心を引き出すことが出来た。					

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内小中学校へパソコン機器等の整備や学習支援のためのデジタル教材を導入し、それを活用した学習活動に取り組んだことで、児童・生徒の授業への興味関心を引き出すことができたが、それを学力の向上へと繋げていく必要がある。</li> <li>各小中学校において、デジタル教材が学習活動へ有効活用されているか確認する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内各小・中学校の無線LANの整備や、電子黒板、タブレット端末等を配備することでデジタル教材が有効活用出来るため、年次計画的にICT環境の整備充実を図る必要がある。</li> <li>各小中学校のデジタル教材の活用についての確認を行い、有効活用されていない場合は、活用方法についての研修等を行う必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

デジタル教材等の学習支援ソフトを有効活用するため、各小・中学校の無線LAN環境や電子黒板、タブレット端末等、ICT環境の整備充実を図り、児童・生徒の授業への興味関心を引き出し、学力向上へと繋げたい。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,291	10,291	8,232	2,059	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名競争入札方式により選定しており、妥当であったと考えている。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		



市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7- 特別支援教育・障害児支援ヘルパー配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(3)-ウ		
	担当部課名	教育部 教育指導課		事業実施(予定)年度	平成25～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	時代に対応する魅力ある学校づくりの推進
						-3-(1)	
事業内容							
市立幼・小・中学校に在籍する教育上特別の支援を必要とする児童・生徒等に対し適切な教育を行うため、特別支援教育支援員や障がい児支援ヘルパーを配置することにより学習環境の整備を図る。							
実施方法							
直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )							
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	46,774				
		(b)予算現額	46,774				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	46,774				
	B.執行済額		35,970				
	うち交付金充当額		28,775				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		76.9%				
予算の状況の説明		不要額が10,804千円発生しているが、H26.3月分賃金は市負担としたものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	・特別支援教育・障害児ヘルパー配置数 ・幼稚園:障害児ヘルパー(保育)10名、(預かり保育)4名 ・小学校:特別支援教育支援員2名、障害児ヘルパー23名 ・中学校:障害児ヘルパー8名	目標	・特別支援教育支援員2人 ・障害児支援ヘルパー45人	( )	( )	( )	
		実績	・特別支援教育支援員2人 ・障害児支援ヘルパー45人				
			目標	( )	( )	( )	( )
		実績					
達成状況説明		市立幼・小・中学校から特別支援教育支援員や障がい児支援ヘルパーの派遣要望を受け、特別支援教育のためのヘルパー派遣要綱等に基づき、各関係機関の判定や関係者の合意形成等を踏まえ適正に配置した。 ・市立幼稚園障がい児支援ヘルパー10人配置 ・市立幼稚園預かり保育障がい児支援ヘルパー4人配置 ・市立小学校特別支援教育支援員2人配置 ・市立小学校障がい児支援ヘルパー23人配置 ・市立中学校障がい児支援ヘルパー8人配置					
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	特別支援教育・障害児ヘルパー配置数 ・幼稚園:障害児ヘルパー(保育)10名、(預かり保育)4名 ・小学校:特別支援教育支援員2名、障害児ヘルパー23名 ・中学校:障害児ヘルパー8名	目標	( )	・特別支援教育支援員2人 ・障害児支援ヘルパー52人	( )	( )	( )
		実績		・特別支援教育支援員2人 ・障害児支援ヘルパー52人			
	[参考指標]		目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
進捗状況説明		市立幼・小・中学校へ特別支援教育支援員や障がい児支援ヘルパーを配置し、通常学級等に在籍する障害のある幼児・児童・生徒等に対し適切な対応を行うことで自立を促し、共生社会へ向けた「生きる力」を育成することが出来る。また、特別支援教育支援員や障害児支援ヘルパーと担任教師等との連携により、学級の運営が円滑になり、それにより他の児童・生徒の学力向上にも繋がっている。 ・市立5幼稚園障がい児支援ヘルパー12人配置 ・市立3幼稚園預かり保育障がい児支援ヘルパー6人配置 ・市立1小学校特別支援教育支援員2人配置 ・市立8小学校障がい児支援ヘルパー26人配置 ・市立2中学校障がい児支援ヘルパー8人配置					

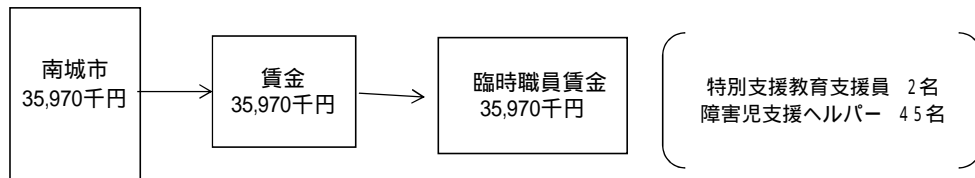
	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育を必要とする幼児・児童・生徒は年々増加傾向にあり、学級担任だけでは支援が困難な発達障害等のために安全確保や、見守りが必要な幼児・児童・生徒、肢体不自由のため生活介助を必要とする幼児・児童・生徒への支援が必要となってきている。</li> <li>・平成19年度の学校教育法改正により、小中学校に在籍する教育上特別な支援を必要とする児童生徒に障害による困難を克服するための教育を行うことが明確に位置付けられ、地域の小中学校への就学を希望する保護者のニーズが年々増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼・小・中学校において特別支援教育等を必要とする幼児・児童・生徒の支援の状況を把握し、適切に配置する。</li> <li>・特別支援教育支援員や障がい児ヘルパーの研修等を実施し、資質向上を図る。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

市内各幼・小・中学校に在籍する特別支援教育等を必要とする幼児・児童・生徒に対し、特別支援教育支援員や障がい児支援ヘルパーを配置し、適切な対応を行うことで共生社会へ向けた自立を促し、また、担任教諭等と特別支援教育支援員や障がい児支援ヘルパーとの連携により、学級の運営を円滑にする。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
35,970	35,970	28,775	7,195	0



資金の流 れ、費目 ・	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	特別支援教育支援員・障害児支援ヘルパーについて、南城市臨時職員の給与等に関する規則により任用しており、妥当であったと考えている。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南城市						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8 -	文化のまちづくり実行委員会支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 1 - (5) - ア	
担当部課名	企画部 まちづくり推進課	事業実施(予定)年度	平成24～25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用したまちづくり - 3 - (2)	
事業内容	地域伝統文化の継承及び観光振興を図るため、南城市文化センターを拠点に芸能公演、夏休み短期音楽スクール、ボランティア育成事業等の各種公演、研修事業を実施する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	5,129	7,418			
		(b)予算現額	4,059	7,418			
		(c)増減額(b-a)	1,070	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	4,059	7,418			
	B.執行済額		4,059	6,855			
	うち交付金充当額		3,246	5,483			
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	92.4%			
予算の状況の説明		不用額563千円が発生しているが、当初、予定していた1公演が減ったため、減額となった。活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	主要イベント等への運営費補助	目標	( 4件 )	( 4件 )	( )	( )	
		実績	4件	6件			
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	南城市文化センターで開催した6件について、必要経費の一部を補助した。追加した2件については、本事業を推進していく上で、本事業に組み入れることが妥当と判断したことから、各事業費を精査した上、予算の範囲内で実施が可能となったことから実施した。 ・シュガーホール発地域めぐり出前ステージ「8th' Jazz in Nanjo」組踊「スイミー」 ・新崎誠実ピアノリサイタル・シュガーホールジュニアコーラス定演・20周年記念オペラ制作						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	下記、主要イベントを実施する。 シュガーホール発!!地域めぐり出前ステージ1,150名(H24年度1,100名) 8th' Jazz in Nanjo 450名(H24年度414名) 組踊スイミー 400名(H24年度 0名) 新崎誠実ピアノコンサート 400名(H24年度0名)	目標	( )	( 2,400人 )	( )	( )	( )
		実績		2,400人			
	【参考指標】		目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
	進捗状況説明	本事業では、当初予定していた来場者数を達成することができた。県内唯一のクラシック専用ホールとしてクラシック公演のみとの認識を持たれがちであるが、伝統芸能や地域で活躍する人材を起用した多様な公演を実施することで、多くの来場者を迎えることができたものと考えられる。今後もクラシックはもとより、地域に根差した公演事業を展開することで、市民をはじめ、県内外からも多くの来場者を迎えることができるよう、多様な公演を行っていく。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	南城市文化センターにおいては、クラシック専用ホールということで、クラシック音楽の公演事業を実施していることはもとより、その他の多様なジャンルの音楽公演を行い、幅広い客層から支持を得ている。さらなる誘客を図るためには、積極的な広報活動並びに多様なジャンルの公演が必要となってくる。	市内・県外への広報活動を試行しているところではあるが、未だ充分なものとはなっていない。ネットを生かした広報活動など、多様な方向での展開をおこなっていく。
今後の取り組み方針		
南城市文化センターへのさらなる誘客を図るため、紙ベースの広報展開のみならず、SNSなどのインターネットを生かした広報活動を、市外・県外、他のホールの広報状況も参考にしながら、広報活動を展開する。また、クオリティの高い公演事業並びに若年者育成の教育プログラムを充実し、裾野の拡大に努めていきたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	6,855	6,855	5,483	1,372	0
<pre> graph LR     A[南城市 6,585千円] --&gt; B[補助金 6,585千円]     B --&gt; C[南城市文化のまちづくり 事業実行委員会 6,855千円]     </pre> <p>〔自主事業実施に係る経費の補助報償費、旅費、需用費、役務費、委託料、使用料〕</p>					

資金の流 れ、費目 ・	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・本市において文化事業を実施する上で、文化施設をもつ実行委員会への支出は妥当である。 ・また、予算に応じた事業を展開しており、それぞれの事業目的に合致した支出となっている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8 - なんじょう歴史文化保存継承事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章 - 1 - (4) - ア		
	担当部課名	教育部 文化課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	
事業内容	本市は神の島久高島や世界遺産「斎場御嶽」、国指定文化財「グスク等」の多くの歴史遺産、琉球王朝時代から引き継がれた精神文化が今も数多く残る地域である。これら貴重な文化遺産を後世に引き継ぐことを目的になんじょう歴史文化保存継承事業を実施する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	10,599	8,880			
		(b)予算現額	6,343	8,880			
		(c)増減額(b-a)	4,256	0			
		(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)		6,343	8,880			
	B.執行済額		6,343	8,302			
	うち交付金充当額		5,075	6,641			
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	93.5%			
予算の状況の説明		専門委員の日程調整がつかず、会議に出席する委員の人数が少なかった為、578千円の不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	御嶽・グスク等調査専門委員会の回数	目標	( 御嶽・グスク5回 資料集戦争5回 )	( )	( )	( )	
		実績	御嶽・グスク8回 資料集戦争3回				
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	専門委員会を行い、「御嶽・グスク」「資料集戦争」に関する調査等について進めた。資料集戦争については、5回予定の内、2回を委員個別での資料収取に充て、その資料を3回の会議で検証したため会議の開催数は減となった。また、御嶽・グスクについては回数は増となっているが、各担当地区別に開催したため回数は増であったが、参加委員は減となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	御嶽・グスク等調査件数専門委員会の回数	目標	( )	御嶽・グスク5回 資料集戦争5回	( )	( )	( )
		実績		御嶽・グスク8回 資料集戦争3回			
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	専門委員会を開催し、これまで調査した資料の検証を行った。字での調査及び文献からの情報収集以外に専門委員からの情報提供や聞き取りについてのアドバイスをいただき再度聞き取り調査や資料収集を行ったことにより調査内容の充実が図られた。					

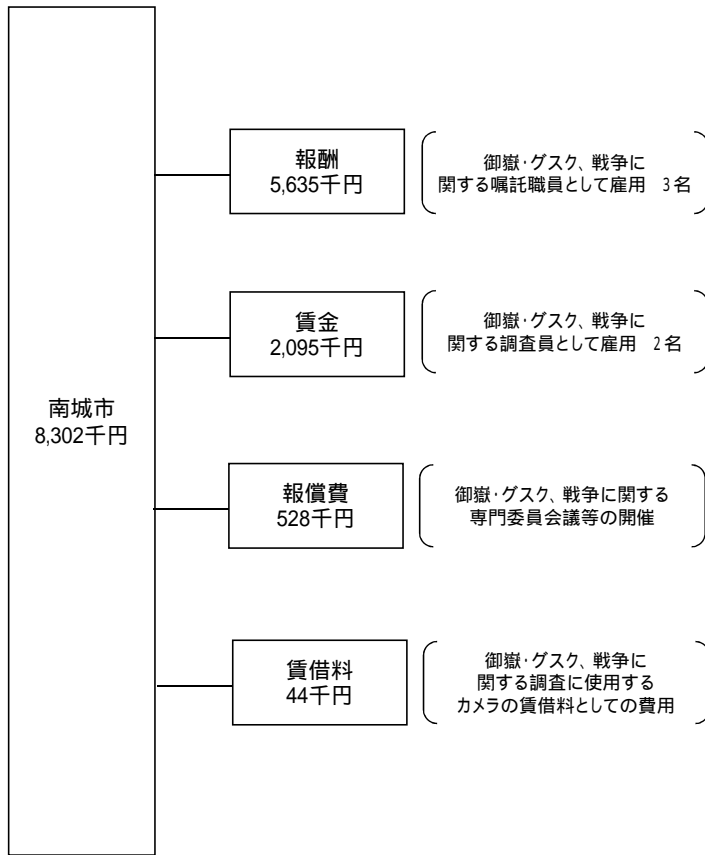
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	調査を記録する個票の保管が紙ベースとなっているため、資料を調べる際に手間がかかっている。紙で作成したものをPCへも保存しているが個票様式への入力の為検索がしづらい。	現在行っているPCでの個票様式への入力をデータベース用に修正し、検索等ができるように改善し業務の効率性を高める。

今後の取り組み方針

個表をデータベース化することで市民等からの問い合わせに迅速に対応できる体制を整えるとともに、これまで引き継がれてきた文化遺産を次代へ継承していくように平成27年度には「御嶽・グスク編」を、平成29年度には「資料集 戦争」を刊行予定としている。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
8,302	8,302	6,641	1,661	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	支出先は、御嶽・グスク及び戦争に関する調査に必要な嘱託職員、賃金職員、専門委員への人件費であり、妥当である。費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南城市
------	-----

**平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】**

事業番号・事業名	8 - 文化センター機能強化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 1 - (4) - ウ
担当部課名	企画部まちづくり推進課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	文化活動を支える基盤の形成 - 3 - (2)

**事業内容**  
本市における地域伝統文化及び市内イベントの拠点として文化芸術創造の発信を行っている文化センターの機能強化を図るため、ホールの音響及び照明並びに空調機器の整備を行う。

**実施方法**  
直接実施      委託      補助      負担      その他 ( )

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	73,480				
	(b)予算現額	73,480				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	0				
	A.計(b+d)	73,480				
	B.執行済額	71,670				
	うち交付金充当額	57,336				
	次年度繰越額	0				
	執行率(%) (B/A)	97.5%				
予算の状況の説明	不要額が1,810千円発生しているが、工事請負費の入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					

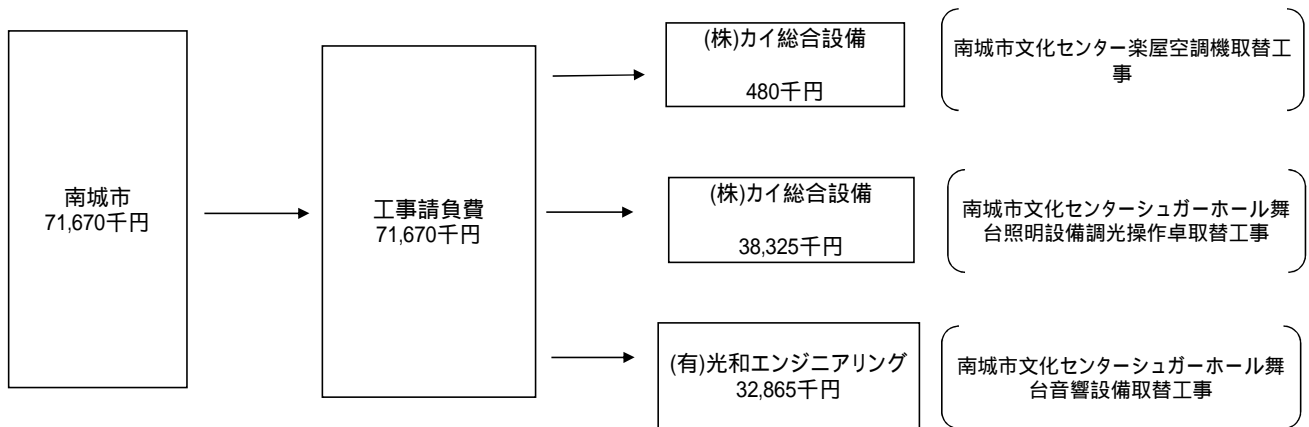
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)	達成状況			
		25年度	26年度	27年度	28年度
		工事入札契約、工事着手	目標 ( 契約、工事着手 )	( )	( )
	実績	契約、工事着手			
	目標	( )	( )	( )	( )
	実績				
楽屋空調機取替工事、舞台照明設備調光操作卓取替工事、舞台音響設備取替工事を契約し、着手した。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)	基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
		文化センター機能強化の整備実施、完了	( )	( 整備実施 )	( )	( )
		実績	完了			
	[参考指標]	目標	( )	( )	( )	( )
	実績					
進捗状況説明	楽屋空調機取替工事、舞台照明設備調光操作卓取替工事、舞台音響設備取替工事を完了した。今回の機器の機能強化により、多様性のある演出が可能となることから、多様性のあるホールの貸出が見込まれるほか、自主事業においては、さらにクオリティーの高い公演が可能となる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	開館後20年が経過した県内唯一のクラシック専用ホールであるシュガーホールを今後の市民の文化芸術創造発信の拠点として活用していくうえでも、当施設の付属設備等の機能の強化を継続していく必要がある。	付属設備等の機能強化を引き続き行う事で、文化芸術創造発信の拠点として施設全体のさらなる向上を図る。
今後の取り組み方針		
文化芸術のさらなる発展へ寄与するため、調光基盤や空調機器、AVといった付属設備等の整備を引き続き実施したい。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
71,670	71,670	57,336	14,334	0



資金の流 れ、費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	工事請負業者は指名競争入札で選定・南城市契約規則に準じており、妥当であったと考えている。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		



市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	-1	戦災滅失戸籍等沖縄関係書類電算化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(5)-イ	
	担当部課名	市民部 市民課	事業実施(予定)年度	平成25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	戦後処理問題の解決 - 12	
事業内容	劣化が進んでいる紙原本の沖縄関係書類の滅失防止を図り、戸籍システムでの検索及び証明発行を可能とし、円滑な管理・運用を整備するため電算化を実施する。						
実施方法	直接実施      委託      補助      負担      その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	67,038				
		(b) 予算現額	59,238				
		(c) 増減額 (b-a)	7,800				
		(d) 繰越額	0				
		A. 計 (b+d)	59,238				
	B. 執行済額		59,200				
	うち交付金充当額		47,359				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		99.9%				
予算の状況の説明		当初計画で予定していたサーバハードディスクの増設が不要となったこと及び落札残によるものであるが、当初予定していた電算化作業はすべて完了しており、適正であった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	戸籍システムの電算化を実施	目標	( 18,059戸 (105,973枚) )	( )	( )	( )	
		実績	16,665戸 (99,734枚)				
		目標	( - )	( )	( )	( )	
実績		-					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄特殊戸籍はスキャナ、受附帳はマイクロカメラにてイメージデータを作成。</li> <li>原票に基づき、検索引見出しデータを作成し、イメージデータにタイトルをつけ、見出しデータと結合し、照合。</li> <li>不明分データの疑義調査。</li> <li>データ及び照合リスト納品。</li> <li>撮影、不明分データの疑義調査の結果、電算化不要と判断された帳票や重複ページを除外することにより実績件数と目標(契約件数)の差異が生じた。</li> </ul>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	戸籍システムの電算化	目標	( )	( 電算化完了 )	( )	( )	( )
		実績		電算化完了			
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市保管の沖縄関係書類はすべて電算化が完了した。</li> <li>相続人の特定や戸籍訂正の際、数日を要していた必要書類の検索が容易にかつ迅速(数分)にできるようになった。</li> <li>戦後の混乱期に調整された帳票のため、保存状態が非常に悪く、紙に書き込まれた情報が滅失してしまう危険性が長年の課題であったが、電算化により情報の保全が実現された。</li> </ul>						

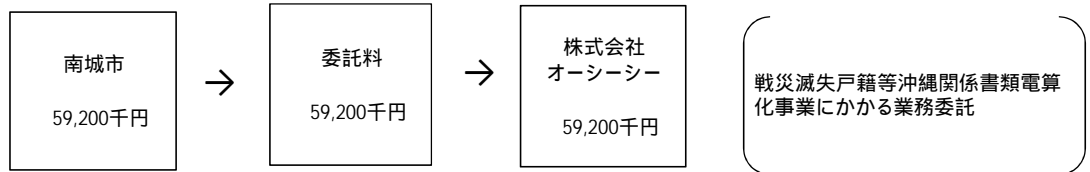
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	劣化による滅失のおそれがあった沖縄関係書類については、撮影、不明分データの疑義調査の結果、電算化不要と判断された帳票や重複ページを除外し、目標数と実数には差異が生じているが、予定していたすべての帳票について電算化が完了した。特に問題はない。	沖縄関係書類の電算化が完了したことで、紙原本滅失を回避し、検索・証明発行の時間短縮をはかることができた。目標は十分に達成できた。

今後の取り組み方針

沖縄関係書類の電算化完了することができたため、平成25年度で事業を終了する。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
59,200	59,200	47,359	11,841	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	業務の性質及び実績から、選定方法及び予算規模は適正である。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

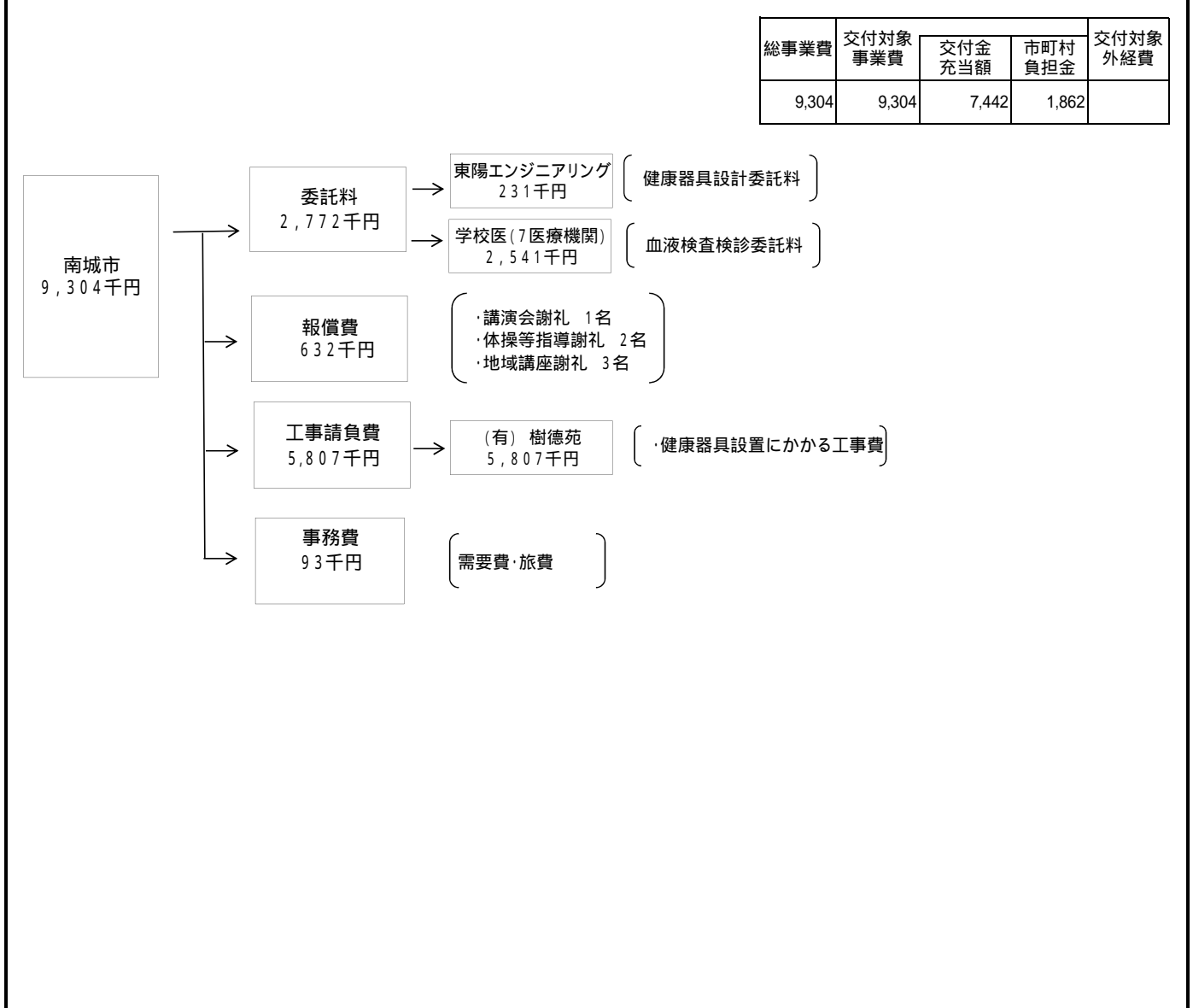
市町村名		南城市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10 - 健康づくり支援調査検証事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-2-(1)-ア		
	担当部課名	市民部 健康増進課	事業実施(予定)年度	平成25～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の食や風土に支えられた健康づくりの推進 -4	
事業内容	市民への健康づくりを支援するため、健康教室等の開催、公園等への健康器具の設置及び生活習慣病予防対策、保健指導等を実施するとともに、その効果等について調査検証する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	10,376				
		(b)予算現額	10,376				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額					
	A.計(b+d)		10,376				
	B.執行済額		9,304				
	うち交付金充当額		7,442				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		89.7%				
予算の状況の説明		不用額1,072千円の内、血液検査委託料が549千円残、設置工事入札残が263千円、健康教室等未開催残120千円が主である。血液検査は、予定の500人に対し436人と少なく、また、講演会、地域講座の開催が目標値に達しなかったのが、主な要因である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	・講演会、健康体操等の実施(24回) ・公園等への健康器具等の設置(1カ所) ・中学2年生(約500名)を対象とした調査の実施	目標	(24回、1箇所、500人)	( )	( )	( )	
		実績	23回、1箇所、436人				
		目標	( )	( )	( )	( )	
	実績						
達成状況説明	健康教室等開催は、24回中23回の達成である。健康器具設置(1箇所)は、目標を達成した。最近若年者肥満の懸念があり、中学生の血液検査を実施したが、個別受診であるため関心のある保護者の受診となり目標値500人中436人となった。この検査は、身体の仕組みや血液の働きについて学ぶ時期あり、穿刺に耐えうる中学生を対象としており、目標値達成に向け今後集団検査ができるよう調整する必要がある。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	・講演会、健康体操等の実施(24回) ・公園等への健康器具等の設置(1カ所) ・中学2年生(約500名)を対象とした調査の実施	目標	( )	(24回、1箇所、500人)	( )	( )	( )
		実績		23回、1箇所、436人			
	〔参考指標〕		目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
進捗状況説明	健康教室等は、内訳(講演1回、体操等9回、地域講座3回、健康劇10回)23回開催した。 ・新開公園に健康器具を設置した。 ・中学生血液検査健診については、貧血は要医療児童29人中5人、血糖の平均値(HA1C)の有所見率27%で4人に1人、脂肪肝の疑いが3.4%と予想以上の結果を得た。目標人数には達しなかったが、親子ともに関心を示し、今後受診率も伸びると思われる。						

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>健康教室等は、講演会の謝礼金が、市の規定でやや少額であるため著名講師等の確保が厳しく人集めに影響している。</p> <p>地域講座は、市民が病気や健康の話は敬遠気味となり、人集めが厳しく3回しか実施できなかった。</p> <p>健康器具の設置は、設置場所の選定に苦心した。</p> <p>中学生血液検査健診については、当初学年を特定して学校内検査(集団検査)を予定していたが、学校の年間計画と折り合わず、更に学校での医療行為に懸念されたため個別検診へ移行した。</p>	<p>健康教室等は、講演会の開き方の工夫で講師の確保を図る。</p> <p>地域講座は、地域の意見を聞き字のイベントと合体方式等を活用し、市民が興味を持てる内容になるよう研究し取り組む。</p> <p>健康器具は、公園所管課と設置効果が高い器具配置について早めに協議をすすめる。</p> <p>中学生血液検査健診については、次年度に向け事前に学校側と調整し、モデル校を選定することで、年間計画へ組み込み実施する。</p>

**今後の取り組み方針**

健康教室等は、各地域の区長、女性会、PTAと協議しながら、講演会の開き方を工夫し、効果的な地域講座開催を展開する。健康器具の設置は、設置効果を検証しながら慎重に進める。中学生の血液検査健診については、学校と連携調整し、モデル校での集団検査、今年度の追跡調査として個別検査も同時に実施していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	設計委託及び工事請負は、本市契約規則により随意契約、指名競争入札を実施し選定しており、妥当と考えている。血液検査委託は、不落随意契約となり、近隣の学校医を選定し、検査委託料・診療点数を考慮し決定した。講師謝礼等について、本市支払基準表により支払。費目・用途については、事業目的達成の観点から必要性を確認し、適正であった。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	